



GVT-152908-001-00 1.3

QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント

Web コンソール操作マニュアル

改版履歴

版数	日付	改版内容
1.0	2020/11	初版発行
1.1	2020/04	表示画像を日本語対応版に差替え OS,ブラウザのサポート版数更新
1.2	2022/9	Microsoft Internet Explorer サポート終了に伴い、Microsoft Edge のサポートを追記
1.3	2023/4	・「1章 Web コンソール機能の概要」の「HTTP サービスの有効化」に注意を追記しました。

All Rights Reserved

事前に NEC の書面による許可なく、本マニュアルをいかなる形式または方法で複製または配布することを禁止します。

商標

本マニュアルに記載されているその他の商標は、各社が保有します。

注意

- 本装置は QX-W1000/1100 シリーズ アクセスポイント コマンドマニュアルに記載されているコマンドのみ使用することができます。QX-W1000/1100 シリーズ アクセスポイント コマンドマニュアルに記載されていないコマンドを使用した場合の動作については保証しません。
- 本マニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。本マニュアルのすべての記述、情報、および推奨事項は、明示的か暗黙的にかかわらず、いかなる種類の保証の対象になりません。

本マニュアルについて

バージョン

本マニュアルに対応する製品バージョンは Version 7.1.X , 7.2.X を含む以降のソフトウェアです。

関連マニュアル

次のマニュアルには、QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイントに関する詳細な説明があります

マニュアル	内容
QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント インSTALLATIONマニュアル	システムのインストールについて説明しています。
QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント オペレーションマニュアル	機能の設定について説明しています。
QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント コマンドマニュアル	機能に関するコマンドについて説明しています。
QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント Web コンソール操作マニュアル	Web コンソールからの装置設定、状態確認等についての操作を記述しています。
QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント Anchor-AC オペレーションマニュアル	Anchor-AC として動作させる場合の機能設定について説明しています。
QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント Anchor-AC コマンドマニュアル	Anchor-AC として動作させる場合の機能に関するコマンドについて説明しています。

マニュアルの構成

このオペレーションマニュアルは以下のセクションで構成されます。

- **1 章 Web コンソール機能の概要**

Web コンソールの機能概要、特長が記載されています。

- **2 章 Web コンソールへの接続**

ログイン画面、ログイン名、パスワードの入力方法について記載しています。

- **3 章 Dashboard メニュー**

ログイン後に表示される画面（Dashboard 画面）について記載しています。

- **4 章 Network メニュー**

インタフェースやリンクアグリゲーションの設定、VLAN、ルーティング、マルチキャストの設定、表示手順について記載しています。

- 5章 System メニュー

Syslog 情報、ファイルの管理、ユーザ設定、装置管理の設定、表示手順について記載しています。

- 6章 Tools メニュー

診断情報の設定、表示手順について記載しています。

- 7章 Quick Start メニュー

AP の設定、表示手順について記載しています。

- 8章 Wireless Configuration メニュー

AP 管理について記載しています。

表記規則

本マニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

I. コマンド表記規則

表記規則	説明
太字体	コマンドラインを示すキーワードには 太字体 を使用します。
<i>イタリック体</i>	コマンドの引数は <i>イタリック体</i> を使用します。
[]	大カッコに囲まれた項目(キーワード、引数)はオプションです。
{x y ...}	選択する項目は、中カッコに入れて縦線で区切ってあります。1つを選択します。
[x y ...]	オプションの選択項目は、大カッコに入れて縦線で区切ってあります。1つまたは複数を選択します。
{x y ...}*	選択する項目は、中カッコに入れて縦線で区切ってあります。少なくとも1つ選択できます。
[x y ...]*	オプションの選択項目は、大カッコに入れて、縦線で区切ってあります。1つあるいは複数選択することも、何も選択しないこともできます。
&<1-n>	&の前のキーワードと引数を組み合わせます。引数で指定した数までキーワードを繰り返し指定できます。
#	#で始まる行はコメントを示します。

II. GUI 表記規則

表記規則	説明
< >	ボタン名は三角カッコに入っています。例えば、<OK>ボタンをクリックします。
[]	ウィンドウ名、メニュー項目、データ表、およびフィールド名は大カッコに入っています。例えば、[New User]ウィンドウが表示されます。

表記規則	説明
/	複数レベルのメニューはスラッシュで区切ってあります。例えば、[File/Create/Folder]。






III. キーボード操作

表記規則	説明
<KEY>	KEY のキーを押します。例えば、<Enter>は Enter キーを押します。
<KEY1 + KEY2>	複数のキーを同時に押します。例えば、<Ctrl+Alt+A>は 3 つのキーを同時に押すことを表します。
<KEY1, KEY2>	複数のキーを順番に押します。例えば、<Alt, A>は 2 つのキーを順に押すことを表します。




IV. マウス操作

表記規則	説明
クリック	マウスのボタンを素早く押します。特に指定がない場合は左ボタンを押します。
ダブルクリック	マウスの左ボタンを素早く 2 回押します。
ドラッグ	マウスの左ボタンを押したまま移動します。

V. 記号

表記規則	説明
 警告	表示を無視したり指示に従わない場合、利用者が怪我などをする恐れのある重要な情報を示します。
 注意	表示を無視したり指示に従わない場合、データの損失や破損、ハードウェアやソフトウェアの損傷などが発生する恐れのある重要な情報を示します。
 重要	注意を払う必要がある情報を示します。
 メモ	追加または補足となる情報を示します。
 ポイント	参考となる情報を示します。

VI. ネットワークアイコン

表記規則	説明
	ルータ、スイッチ、またはファイアウォールなどの一般的なネットワークデバイスを表しています。
	ルータまたはレイヤ 3 スイッチなどのルーティング対応のデバイスを表しています。
	レイヤ 2、レイヤ 3 スイッチまたはレイヤ 2 転送機能に対応したルータなどの一般的なスイッチデバイスを表しています。

VII. 設定例

本マニュアルの設定例は各機能での代表的な設定例を示します。インタフェース番号、システム名の表記、display コマンドで表示される情報は、ご使用の装置と異なることがあります。

VIII. セキュリティ強化

セキュリティ強化のため、simple で設定されたパスワードも cipher や hash で登録されます。

本マニュアルは以下に示す 8 個のセクションで構成されています。

01 - Web コンソール機能の概要

02 - Web コンソールへの接続

03 - ダッシュボードメニュー

04 - ネットワーク構成メニュー

05 - システムメニュー

06 - ツールメニュー

07 - クイックスタートメニュー

08 - ワイヤレス構成メニュー

目次

1 章 Web コンソール機能の概要	1-1
1.1 Web コンソールの説明	1-1
1.2 Web コンソールの有効化	1-1
1.2.1 コンソール接続	1-1
1.2.2 LAN ケーブルの接続	1-1
1.2.3 装置の動作モード確認	1-2
1.2.4 装置のアドレスの設定	1-3
1.2.5 PC の設定	1-3
1.2.6 HTTP サービスの有効化	1-6
1.2.7 Web コンソールユーザの作成	1-7
1.3 端末動作環境	1-8
1.3.1 オペレーティングシステム	1-8
1.3.2 ブラウザ	1-8

1章 Web コンソール機能の概要

1.1 Webコンソールの説明

Web コンソールは装置にローカルユーザ、IP アドレスを設定した後、CLI を使用せずに Web ブラウザから装置の設定をすることができます。

VLAN 作成、ポート状態の管理、コンフィグやソフトウェアのアップロードなどを GUI 操作で簡単にできます。



注意：

- Web コンソールを使用する前に、CLI でローカルユーザ、IP アドレスの設定を行う必要があります。
 - Web コンソール操作時に表示されるメッセージが、CLI 操作時と異なる場合があります。
 - Web コンソールを接続したまま、CLI 等で設定変更を行うと、Web コンソールの操作が正しく行えない場合や、操作上のメッセージが正しく表示されない場合があります。
 - Web コンソールで設定を変更する場合、現在の装置情報を確認のうえ、操作を行ってください。
 - QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイントの Web コンソールは、コマンドマニュアルに記載してある機能のメニュー操作に対応しています。マニュアルに記載のない機能のメニューを操作したときの動作については保証できません。
-

1.2 Webコンソールの有効化

装置に Web コンソール機能が備わっている場合でも、使用する前に Web コンソール機能の有効化と、Web コンソールで設定変更ができる権限を持ったユーザを作成する必要があります。

以下に Web コンソール機能の有効化とユーザの作成の手順を示します。

1.2.1 コンソール接続

コンソールケーブルで PC のシリアルポートと装置のコンソールポートを接続し、装置にログインします。

1.2.2 LAN ケーブルの接続

Web コンソールによる操作を行うため、装置の LAN ポートと端末の LAN ポートを LAN ケーブル（ストレート）で接続します。接続する LAN ポートはどこでもかまいません。

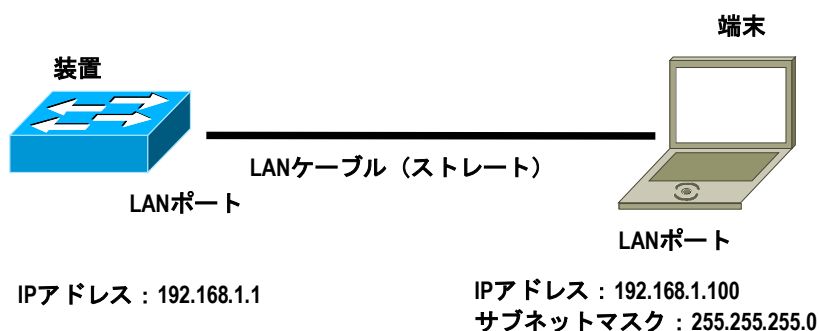


図 1-1 LAN ケーブルの接続

1.2.3 装置の動作モード確認

⚠ 注意:

Anchor-AC モードの装置を設定する場合は、同じネットワーク内に Anchor-AC モードで動作する装置が存在しないことを確認してください。
同一ネットワーク内に他の Anchor-AC モードで動作する装置が存在すると、MAC アドレスの大きい装置が自動的に Anchor-FIT モードに切り替わります。
詳細は QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント Anchor-AC オペレーションマニュアルの「Anchor-AC の設定」の「AC 選出」を参照ください。

事前に装置の動作モードを確認します。FIT モードまたは Anchor-FIT モードでは Web コンソールが使用出来ないため、装置の動作モードを FAT モード、または Anchor-AC モードに変更する必要があります。

動作モードの変更手順については、QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント インスタレーションマニュアルの「ソフトウェアのアップグレード」の「動作モードの変更」を参照ください。

#AP の動作モードを「**display wlan device role**」コマンドで確認します。

下記のいずれかの結果が表示された場合は、装置の動作モードの変更が必要です。

```
<AP> display wlan device role
```

```
Current running mode : FIT AP
```

```
<AP> display wlan device role
```

```
Current running mode : Anchor AP
```

1.2.4 装置のアドレスの設定

VLAN 1 を作成します。VLAN 1 に PC に接続されている GigabitEthernet 1/0/1 を追加します。

```
<AP> system-view
```

VLAN インタフェース 1 に IP アドレス 192.168.1.1、サブネットマスク 255.255.255.0 を割り当てます。

```
[AP] interface vlan-interface 1
```

```
[AP-VLAN-interface1] ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
```

```
[AP-VLAN-interface1] quit
```

1.2.5 PC の設定

PC にアドレスの設定を行います。コマンドプロンプトを起動します。PC から装置に対して ping を実行し、応答があることを確認します。

以下の手順では Windows 10 を使用しています。PC の環境により適切に通信確認を行ってください。

- 1) “スタート “→” コントロールパネル “→” すべてのコントロールパネル項目 “→” ネットワークと共有センター “を開きます。



図 1-2 ネットワークと共有センター

- 2) “アクティブなネットワークの表示” → “イーサネット” → “プロパティ” → “インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)” → “プロパティ” を選択します。PC の IP アドレス、サブネットマスクを設定します。装置と異なるネットワーク上にある場合、デフォルトゲートウェイを設定します。その場合、装置にも PC があるネットワークに到達するためのデフォルトゲートウェイが必要です。

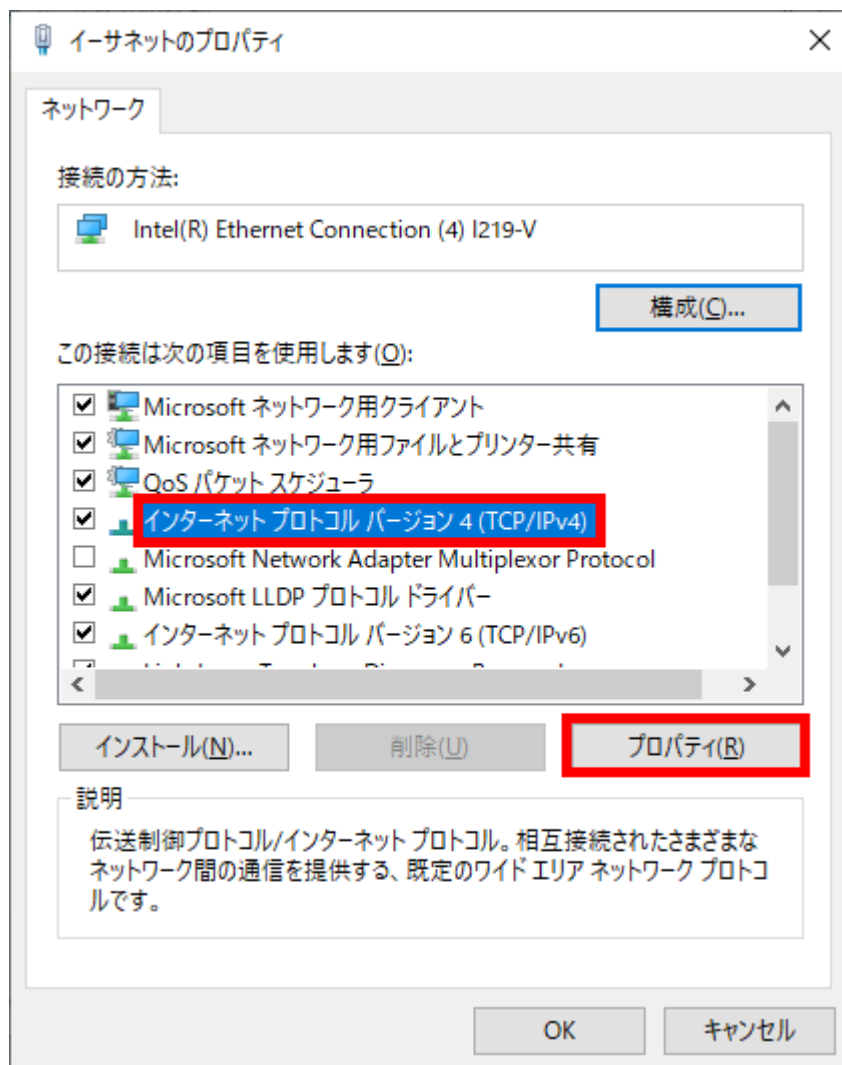


図 1-3 イーサネットのプロパティ

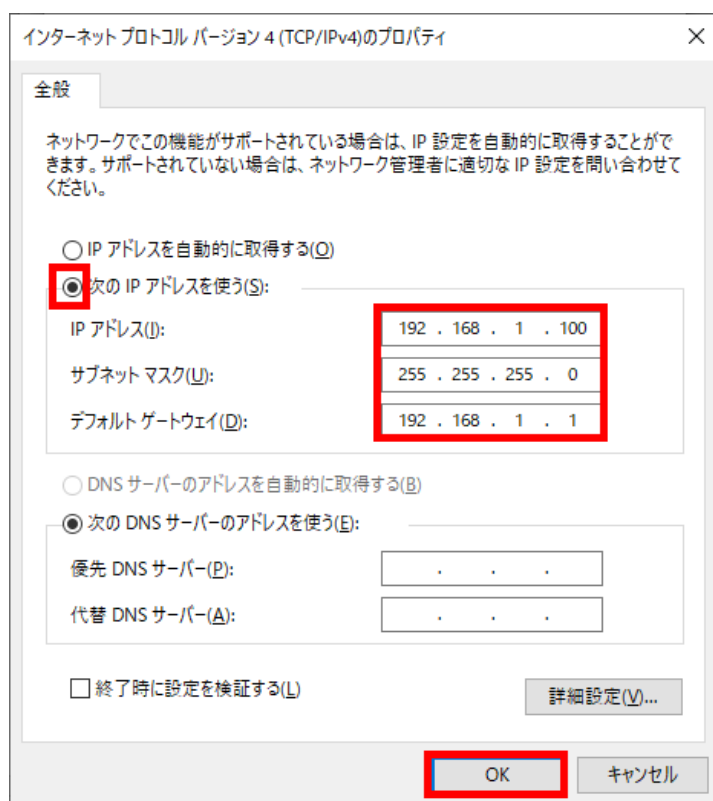


図 1-4 インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）でのアドレスの設定

- 3) “スタート”→“Windows システムツール”→“コマンドプロンプト”の手順でコマンドプロンプトを起動します。PC のアドレスを確認するため、ipconfig を実行します。

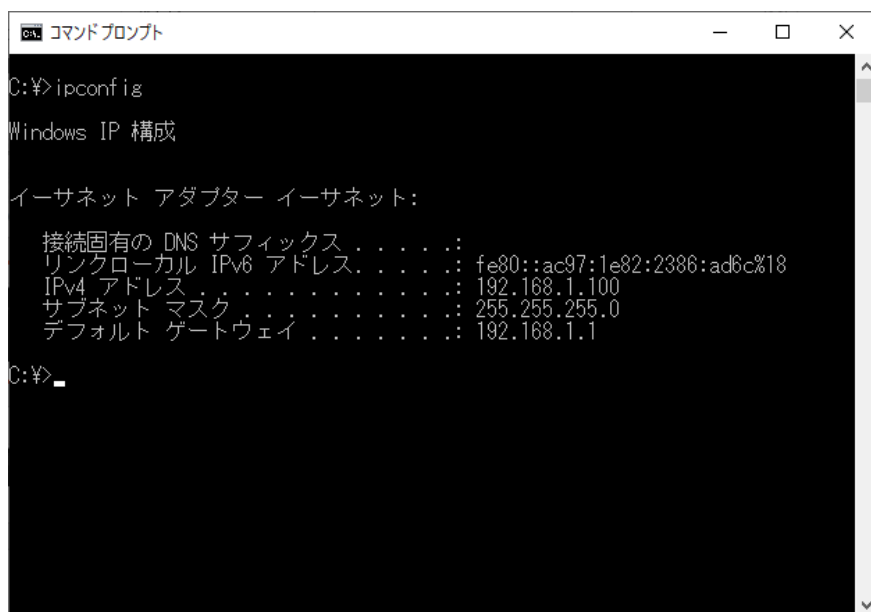
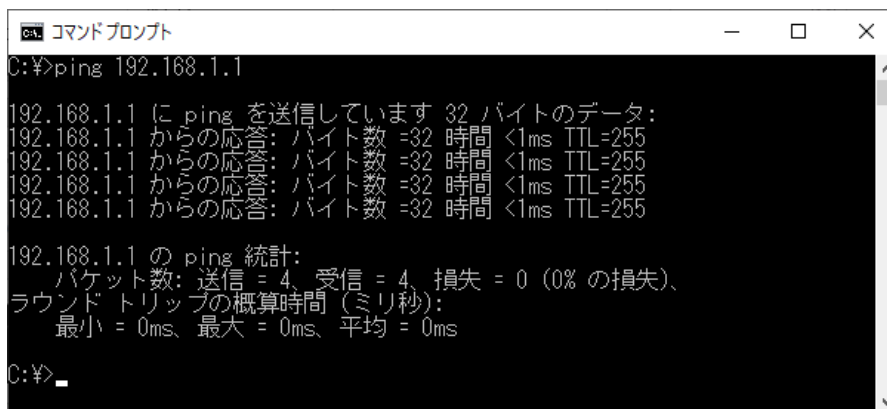


図 1-5 PC のアドレスの確認

4) PC から装置に ping を実行します。



```
コマンドプロンプト
C:\>ping 192.168.1.1

192.168.1.1 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
192.168.1.1 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=255
192.168.1.1 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=255
192.168.1.1 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=255
192.168.1.1 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=255

192.168.1.1 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4、受信 = 4、損失 = 0 (0% の損失)、
ラウンド トリップの概算時間 (ミリ秒):
    最小 = 0ms、最大 = 0ms、平均 = 0ms

C:\>
```

図 1-6 ping の実行

1.2.6 HTTP サービスの有効化

Web コンソールに HTTP で接続するために、HTTP サービスを有効になっていることを確認します。HTTP サービスはデフォルトで無効です。

現在の設定で HTTP サービスが無効でないことを確認します。

⚠ 注意:

FIT および Anchor-FIT モードでは ip http enable コマンドを入力することはできません。
ip http enable コマンドを入力できない場合は、動作モードを確認してください。
初期の動作モードについては、QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイントのインストール
レーションマニュアルの 5 章 ソフトウェアアップグレード”5.1 動作モードの説明”を参照し
てください。

HTTP サービスが無効の場合の表示例を以下に示します。

```
[AP]display this
#
sysname AP
#
undo copyright-info enable
#
loopback-detection interval-time 5
#
password-recovery enable
#
scheduler logfile size 16
#
domain default enable system
#
undo attack-defense tcp fragment enable
#
wlan gps-report interval 0
wlan led-mode normal
usb-state enable
#
```

```
return  
# HTTP サービスが無効の場合、http サービスを有効にします。  
[AP] ip http enable  
[AP]display this  
#  
sysname AP  
#  
undo copyright-info enable  
#  
loopback-detection interval-time 5  
#  
password-recovery enable  
#  
scheduler logfile size 16  
#  
domain default enable system  
#  
ip http enable  
#  
undo attack-defense tcp fragment enable  
#  
wlan gps-report interval 0  
wlan led-mode normal  
usb-state enable  
#  
return
```

メモ :

- https で使用するユーザには **service-type https** コマンドを設定します。
 - https を使用する場合は **ip https enable** コマンドで HTTPS サービス有効にします。 **ip https enable** コマンドで HTTPS を有効にしていない場合でも、ログイン時は HTTPS で行われます。
-

1.2.7 Web コンソールユーザの作成

装置で Web コンソールユーザを作成します。Web コンソールによるログイン設定の詳細は QX-W1000/W1100 シリーズ アクセスポイント オペレーションマニュアルのセクション 1 はじめに オペレーションマニュアル “Web コンソールによるログイン” を参照してください。

装置にローカルユーザ **web** を作成します。

```
[AP] local-user web  
New local user added.
```

サービスタイプ **http** を追加し、ユーザロールを **network-admin** に設定します。

```
[AP-luser-manage-web]service-type http  
[AP-luser-manage-web]authorization-attribute user-role network-admin
```

#パスワードを **admin12345** に設定します。

```
[AP-luser-manage-web]password simple admin12345
```

設定を保存します。

```
[AP-luser-manage-web]save
```



```
The current configuration will be written to the device. Are you sure? [Y/N]:y
Please input the file name(*.cfg)[flash:/startup.cfg]
(To leave the existing filename unchanged, press the enter key):
Validating file. Please wait...
Configuration is saved to device successfully.
```

メモ :

7.2.27 を含む以降のソフトウェアでは、以下の要件を満たすパスワードである必要があります。

- 10 文字以上。
- アルファベット、数字、記号のうち 2 種類以上を含む。
- ユーザ名またはユーザ名の逆の文字を含まない。

7.2.21 を含む以前のソフトウェアで要件を満たしていないパスワードを設定し、7.2.27 を含む以降のソフトウェアにバージョンアップをした場合、古いパスワードのまま利用することもできますが、ログイン時にパスワードの強化が要求されます。

1.3 端末動作環境

1.3.1 オペレーティングシステム

本装置の Web コンソールは以下のオペレーティングシステムをサポートしています。

- Windows 8.1/10
- Linux

1.3.2 ブラウザ

本装置の Web コンソールは以下のブラウザをサポートしています。

- Microsoft Edge Chromium 版以降
- Mozilla Firefox 4.0 以降
- Google Chrome 10.0 以降



注意 :

- 本装置の Web コンソールは、ブラウザの“戻る”、“次へ”、“更新”などのボタンをサポートしていません。これらのボタンを使用すると、Web ページが表示されないなど、異常な状態になる可能性があります。
 - システムが STP (Spanning Tree) のトポロジ計算をしている間は、web コンソールで装置にログインすることができません。
 - Windows ファイアウォールが TCP 接続数を制限するため、IE (Internet Explorer) を使用して装置にログインする場合、Web コンソールに接続できない場合があります。接続できない場合は、ファイアウォールの設定を確認してください。
 - Web コンソールで装置のソフトウェアバージョンを変更する場合、IE のキャッシュされたデータを削除するため、確認メッセージが表示される場合があります。
-

目次

2 章 Web コンソールへの接続	2-1
2.1 Web コンソールへのログイン	2-1
2.2 画面の概要	2-3
2.2.1 ユーザインフォメーション	2-4
2.2.2 設定メニュー	2-6
2.2.3 設定、情報画面	2-6
2.2.4 View	2-7

2章 Web コンソールへの接続

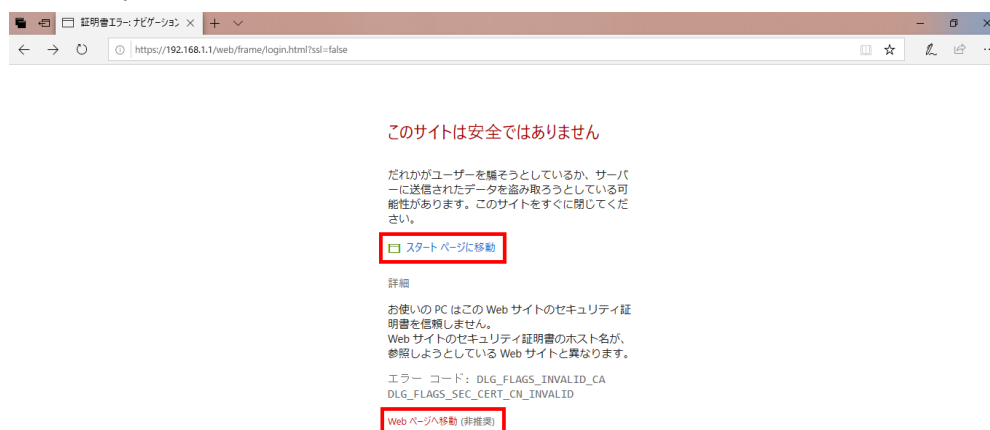
2.1 Webコンソールへのログイン



注意：

端末の設定（PROXY サーバ、Firewall、セキュリティ）などにより、設定を変更しないと Web コンソールに接続できない場合があります。

- 1) PC 上のブラウザのアドレスバーに“http://装置の IP アドレス”を入力します。
“http://192.168.1.1”を入力します。



Microsoft Edge を使用してログインを行う場合は上記のような警告が表示される場合があります。

[スタートページに移動]、[Web ページへ移動]をクリックすることで、正常にログイン画面が表示されます。



注意：

ログイン画面は、https にリダイレクトされますが、装置内で生成した自己証明書を用いているため、証明書のエラーが表示されます。
強制的に表示をさせるように操作することでログイン画面が表示されます。

接続が完了するとログイン画面が表示されます。

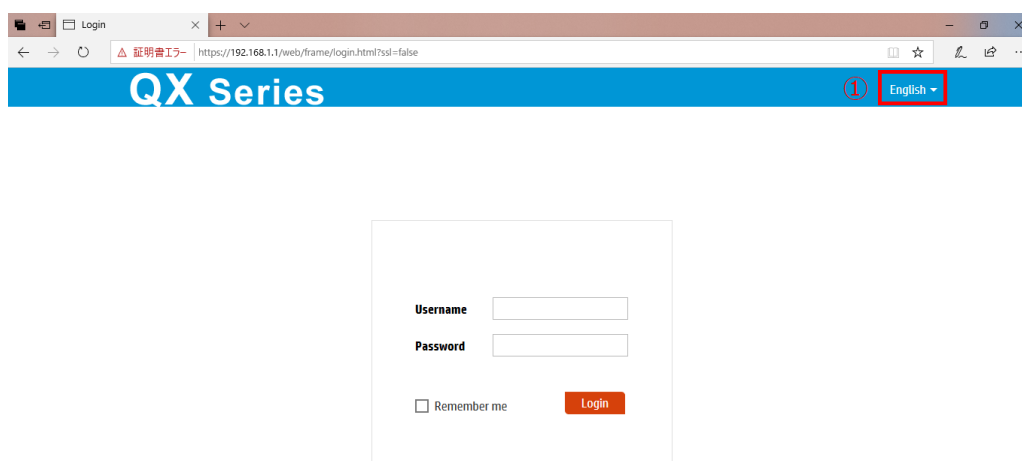


図 2-1 Web ログインページ

2) 図 2-1の①に示す“English”をクリックすると言語選択が可能です。

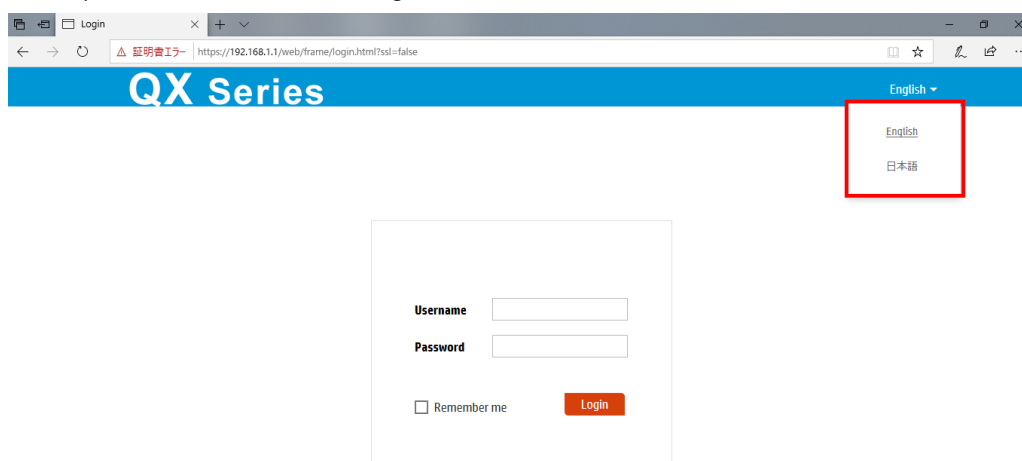


図 2-2 言語選択表示

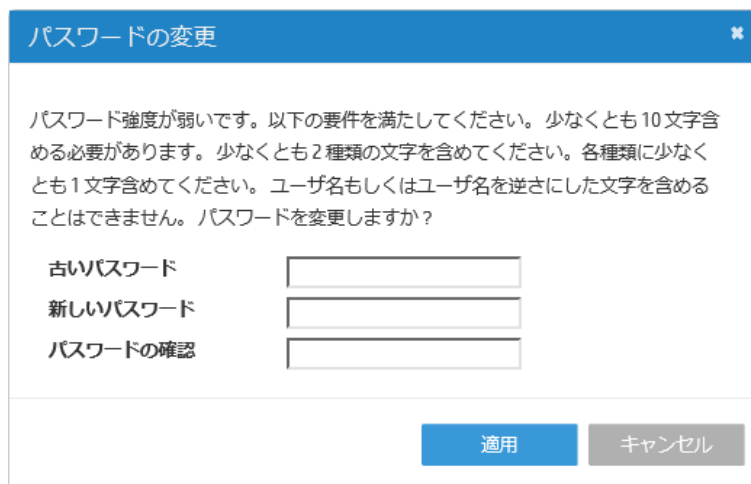
- 3) 図 2-2の日本語をクリックすると以降の WEB 画面は日本語表示になります。言語選択はいつでも変更可能です。
- 4) ユーザ名 web、パスワード admin を入力します。大文字、小文字を区別します。入力後、“ログイン”をクリックします。



The image shows a login form with a white background. It contains two input fields: 'ユーザ名' (Username) and 'パスワード' (Password). Below these is a checkbox labeled '記憶する' (Remember me). To the right of the checkbox is an orange button labeled 'ログイン' (Login). The entire form is enclosed in a thin gray border.

図 2-3 ユーザ名、パスワードの入力

- 5) 7.2.21 を含む以前のソフトウェアで以下の要件を満たさないパスワードを設定し、7.2.27 を含む以降のソフトウェアにバージョンアップをした場合、ログイン時にパスワードの強化が要求されます。キャンセルすることでそのまま利用可能ですが、変更することを推奨します。
- 10 文字以上。
 - アルファベット、数字、記号のうち 2 種類以上を含む。
 - ユーザ名またはユーザ名の逆の文字を含まない。



The image shows a dialog box titled 'パスワードの変更' (Change Password) with a close button in the top right corner. The main text reads: 'パスワード強度が弱いです。以下の要件を満たしてください。少なくとも 10 文字含める必要があります。少なくとも 2 種類の文字を含めてください。各種類に少なくとも 1 文字含めてください。ユーザ名もしくはユーザ名の逆さにした文字を含めることはできません。パスワードを変更しますか？' (Password strength is weak. Please meet the following requirements. You must contain at least 10 characters. You must contain at least 2 types of characters. You must contain at least 1 character of each type. You cannot contain the user name or the reverse of the user name. Do you want to change the password?). Below the text are three input fields: '古いパスワード' (Old Password), '新しいパスワード' (New Password), and 'パスワードの確認' (Confirm Password). At the bottom right are two buttons: '適用' (Apply) and 'キャンセル' (Cancel).

図 2-4 パスワード変更要求

2.2 画面の概要

ログインすると以下のような画面を表示します。

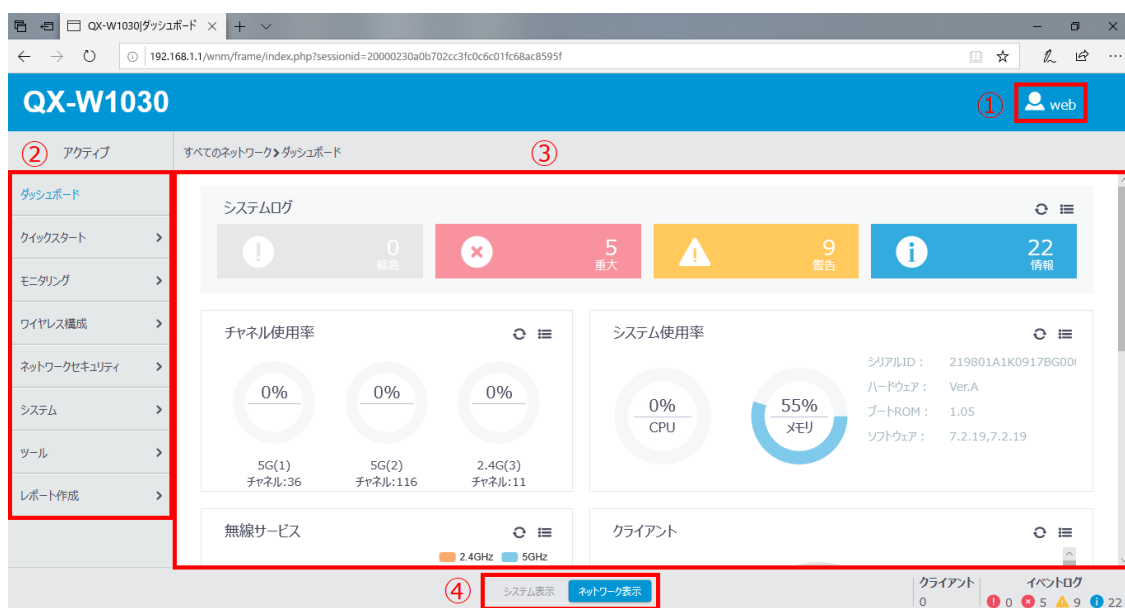



図 2-5 画面表示の概要

以下に画面上のアイコンの概要について記載します。詳細は後述の各章を参照してください。

2.2.1 ユーザインフォメーション

ログインしているユーザの情報を表示します。図 2-5の①に示す  web をクリックすると、図 2-6に示すようにユーザインフォメーションのポップアップ画面が表示されます。

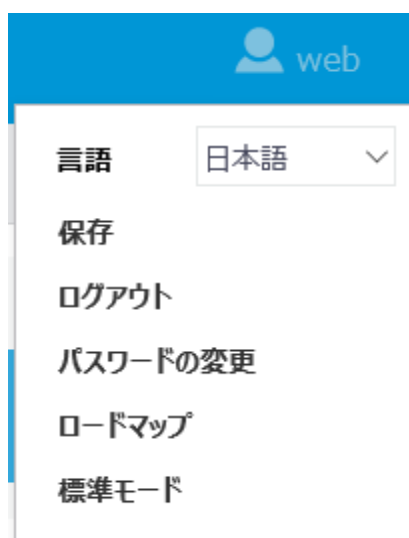


図 2-6 ユーザインフォメーションのポップアップ画面

I. 設定の保存

設定を保存します。“保存”をクリックすると、図 2-7に示すように現在の設定を保存するかどうかの確認ダイアログが表示されます。“はい”をクリックします。

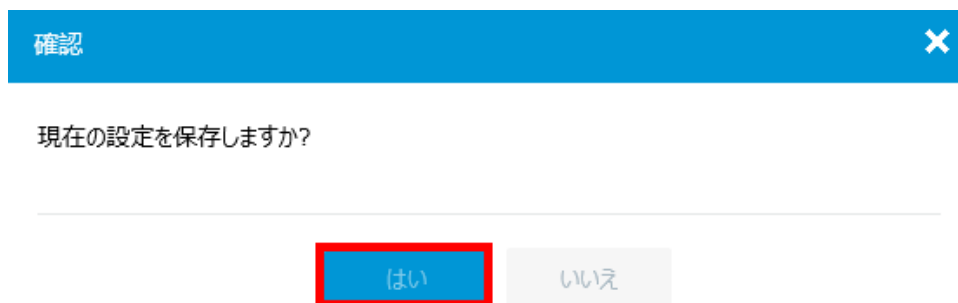


図 2-7 保存確認画面

II. ログアウト

Web コンソールからログアウトします。“ログアウト”をクリックすると、図 2-8に示すように現在の設定を保存するかどうかの確認ダイアログが表示されます。“はい”をクリックすると Web ブラウザ画面が終了します。



図 2-8 ログアウト確認画面

III. パスワードの変更

パスワードを変更します。“パスワードの変更”をクリックすると、図 2-9に示すようにパスワード変更の確認ダイアログが表示されます。“新しいパスワードの入力”に新しいパスワードを入力します。“新しいパスワードの再入力”に再度新しいパスワードを入力します。“適用”をクリックすると、パスワードの変更が適用されます。

図 2-9 パスワードの変更画面

IV. ロードマップ

“ロードマップ” をクリックすると、図 2-10に示すように設定、情報メニューの一覧を表示します。設定、情報メニューをクリックすると各設定、情報画面に移行し、画面中央に該当する内容を表示します。

システム表示

ダッシュボード

ネットワーク構成

ネットワークインタフェース	VLAN	ネットワークルーティング	ネットワークサービス	マネージメントプロトコル
インタフェース	VLAN	ルーティングテーブル	IPサービス	HTTP/HTTPS
リンクアグリゲーション	MAC	スタティックルーティング	IP	Telnet
PPPoE	STP		IPv6	SSH
			DHCP/DNS	NTP
			DHCP	LLDP
			IPv4 DNS	設定
			IPv6 DNS	

図 2-10 ロードマップ画面

2.2.2 設定メニュー

図 2-5の②は設定、情報メニューです。文字をクリックすると設定、情報メニューのサブ設定、情報メニューを表示します。サブ設定メニューをクリックすると各設定、情報画面に移行し、画面中央に該当する内容を表示します。

2.2.3 設定、情報画面

図 2-5の③は設定、情報画面を表示します。図 2-5の例では設定、情報メニューは“ダッシュボード”です。概要情報が画面中央に表示されています。

2.2.4 View

図 2-5の④は表示選択メニューです。“システム表示”または“ネットワーク表示”をクリックすると、表示を選択できます。



注意：

ログイン後、Web コンソール画面上でなにも操作しない場合、自動的にログアウトします。
アイドルタイムアウト時間はデフォルトで 10 分です。

目次

3 章 ダッシュボードメニュー	3-1
3.1 システムログ	3-3
3.2 チャンネル使用率	3-5
3.3 無線サービス	3-6
3.4 システム使用率	3-6
3.5 クライアント	3-7
3.6 インタフェーストラフィック	3-7
3.7 表示画面選択	3-7
3.8 ステータス表示	3-7

3章 ダッシュボードメニュー

図 3-1に示す“システム表示”での設定メニューもしくは、図 3-2に示す“ネットワーク表示”での設定メニューで“ダッシュボード”をクリックします。

図 3-3に示すようなダッシュボードメニューが表示されます。システムログ、チャネル使用率、無線サービス、システム使用率、クライアント、インタフェーストラフィックを表示します。

“システム表示”および“ネットワーク表示”で表示されるダッシュボードメニューの内容は同一です。

表示選択に関する詳細は“ダッシュボードメニュー”の“表示画面選択”を参照してください。

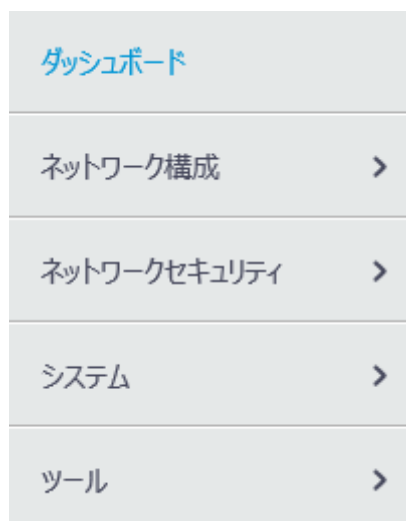


図 3-1 ダッシュボードメニューの選択（システム表示での設定メニュー）

ダッシュボード	
クイックスタート	>
モニタリング	>
ワイヤレス構成	>
ネットワークセキュリティ	>
システム	>
ツール	>
レポート作成	>

図 3-2 ダッシュボードメニューの選択（ネットワーク表示での設定メニュー）

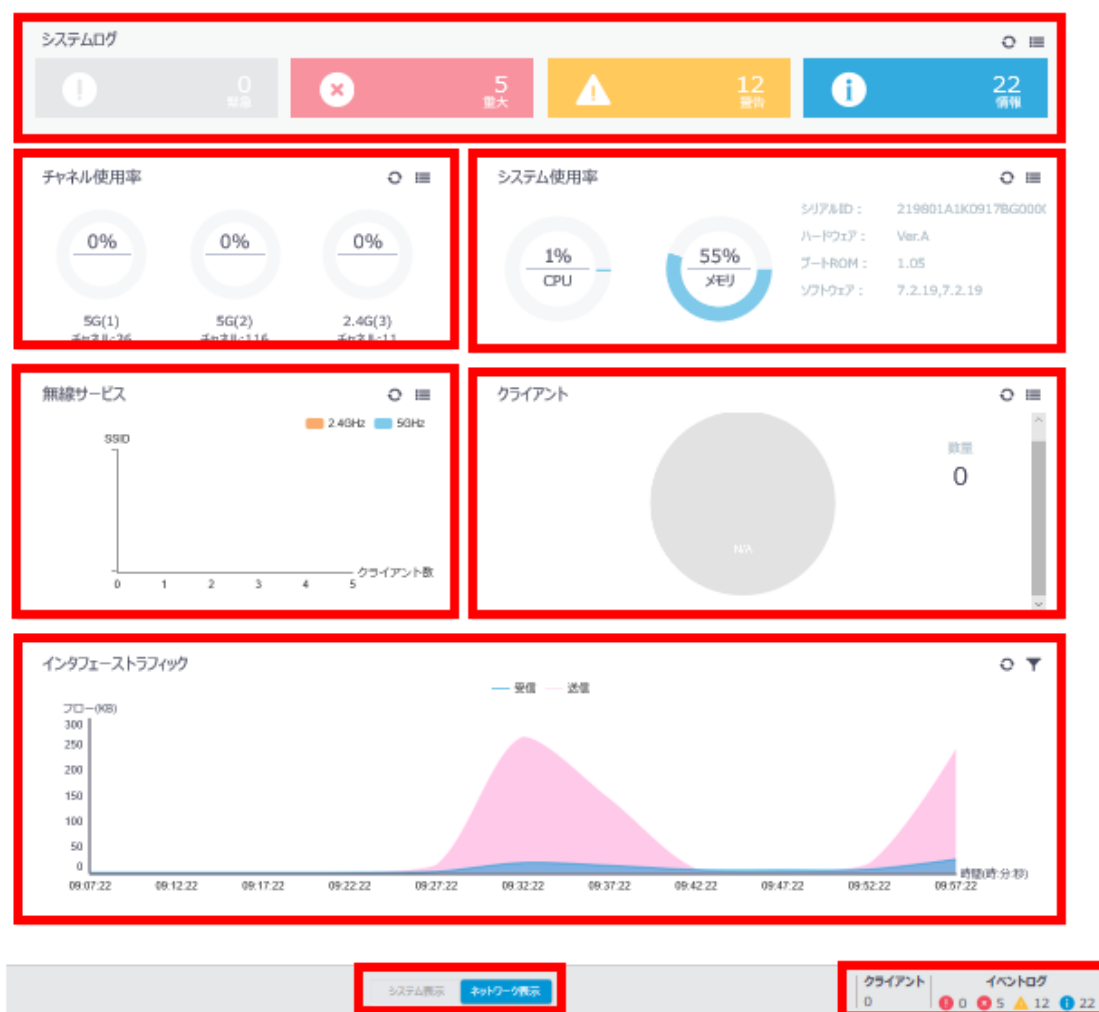


図 3-3 ダッシュボードメニュー

3.1 システムログ

ログの数が表示されます。ログは重要度レベルごとに区分されます。

図 3-3の例では、以下のログがあることを示します。

-  (緊急レベル) : 0
-  (重大レベル) : 5
-  (警告レベル) : 12
-  (情報レベル) : 22

システムログの右上の  をクリックすると、Syslog 情報を表示します。

“ダッシュボード” をクリックするとダッシュボードメニューに戻ります。

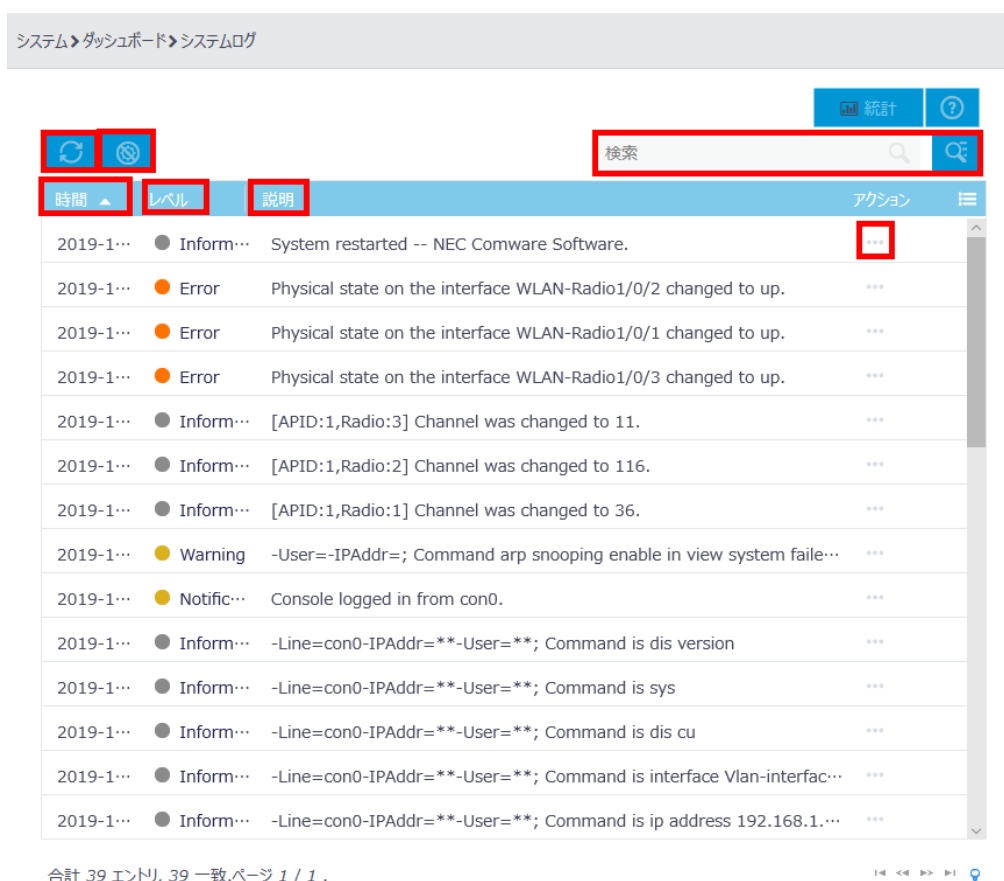





図 3-4 Syslog 情報画面

“時間”、“レベル”、“説明”をクリックすることで項目ごとにソートすることができます。

 をクリックすると、Syslog 情報の更新を行います。 をクリックするとすべての Syslog 情報を削除します。

Syslog 情報を検索することができます。検索したい文字列を“検索”に入力します。

 をクリックすることで、Syslog 情報の高度な検索を行うことができます。“時間”、“レベル”、“説明”を入力、選択します。“検索”をクリックします。図 3-5に Syslog 情報の高度な検索画面を表示します。

高度な検索

時間

レベル

説明

検索

リセット

閉じる

図 3-5 Syslog 情報の高度な検索

Syslog 情報の **...** をクリックすると図 3-6に示すような Syslog 情報の詳細を表示します。

システムログ詳細

時間

グループ

レベル

要約

説明

2019-12-26 09:06:35

SYSLOG

6

SYSLOG_RESTART

System restarted -- NEC Comware Software.

適用

図 3-6 Syslog 情報の詳細

3.2 チャネル使用率

図 3-3に示すダッシュボードメニューの“チャネル使用率”には、使用中のチャネル情報が表示されます。

3.3 無線サービス

図 3-3に示すダッシュボードメニューの“無線サービス”には、無線、SSID の状態が表示されます。

3.4 システム使用率

図 3-3に示すダッシュボードメニューの“システム使用率”には、装置のリソース（CPU、メモリ）の使用状況が表示されます。

図 3-3の例では CPU 使用率：1%、メモリ使用率：55%であることを示します。


ダッシュボードメニューの  をクリックすると、図 3-7のようなシステム使用率画面を表示します。



図 3-7 システム使用率画面

“ダッシュボード”をクリックするとダッシュボードメニューに戻ります。

画面上部に現在時刻、システム稼働時間が表示されます。

画面中央部左側に CPU 使用率、メモリ使用率が表示されます。

画面中央部にフラッシュメモリの使用率が表示されます。

画面右側に装置の情報が表示されます。

- シリアル番号
- ブート ROM バージョン
- 装置のハードウェアバージョン
- システムソフトウェアバージョン

3.5 クライアント

図 3-3に示すダッシュボードメニューの“クライアント”には、接続したクライアント数が表示されます。

3.6 インタフェーストラフィック

図 3-3に示すダッシュボードメニューの“インタフェーストラフィック”には、装置のインタフェースでの時間ごとのトラフィック量 (Kbps) が表示されます。

▼ をクリックすると、図 3-8のようなインタフェース選択画面が表示されます。表示したいインタフェースを選択してください。



図 3-8 インタフェース選択画面

3.7 表示画面選択

図 3-9に示すように、ダッシュボードメニューの下部にある“システム表示”または“ネットワーク表示”をクリックすると、それぞれのメニューを選択できます。



図 3-9 表示画面の選択

図 3-9に示す選択画面では、ネットワーク表示が選択されています。

3.8 ステータス表示

図 3-3に示すダッシュボードメニューには、アクセスポイント、クライアント、イベントログのステータスがそれぞれ表示されます。

- 1) クライアントに表示される数字は、クライアント数を表します。
- 2) イベントログに表示されるステータスは以下の通りです。

🚨 : 緊急レベルログの数



: 重大レベルログの数



: 警告レベルログの数



: 情報レベルログの数

ステータスに表示される情報は、ダッシュボード内の“クライアント”、“システムログ”
に表示される情報に基づきます。

目次

4 章 ネットワーク構成メニュー	4-1
4.1 インタフェースの設定、表示	4-2
4.1.1 インタフェースの設定、表示	4-2
4.1.2 リンクアグリゲーションの設定、表示	4-8
4.2 リンクの設定、表示.....	4-11
4.2.1 VLAN の設定、表示.....	4-11
4.3 ルーティングの設定、表示.....	4-15
4.3.1 ルーティングテーブルの設定、表示.....	4-15
4.3.2 スタティックルーティングの設定、表示	4-17
4.4 ネットワークサービスの設定、表示	4-20
4.4.1 IP サービスの設定、表示	4-20

4章 ネットワーク構成メニュー

本章ではシステム表示のネットワーク構成メニューの設定について説明します。図 4-1に示すように、システム表示が選択されていることを確認してください。



図 4-1 システム表示の選択

図 4-2に示すシステム表示での設定メニューで“ネットワーク構成”をクリックします。
図 4-3に示すようなネットワーク構成サブメニューが表示されます。

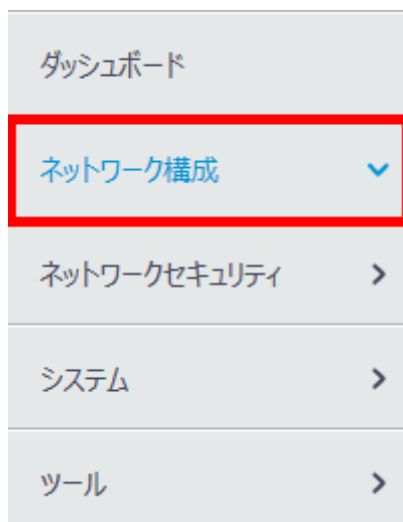


図 4-2 ネットワーク構成メニューの選択



図 4-3 ネットワーク構成サブメニュー

4.1 インタフェースの設定、表示

4.1.1 インタフェースの設定、表示

I. インタフェースの表示

ネットワーク構成サブメニューで“ネットワークインタフェース”を選択します。図 4-4 に示すようなインタフェースのリストが表示されます。“すべてのインタフェース”でインタフェースの種類を選択することができます。



 をクリックすると、インタフェース情報の更新を行います。



図 4-4 インタフェースリスト画面

II. インタフェースの検索

インタフェースを検索することができます。インタフェースのリスト画面で、GE1/0/1 など検索したい項目を“検索”に入力します。

インタフェースのリスト画面で  をクリックすることで、インタフェースの高度な検索を行うことができます。図 4-5にインタフェースの高度な検索画面を表示します。

- 1) “インタフェース”、“ステータス”、“IP アドレス”、“速度 (Kbps)”、“通信モード”、“説明”を選択、入力します。
- 2) “検索”をクリックします。

高度な検索

×

インタフェース

ステータス

IPアドレス

速度(Kbps)

通信モード

説明


Q検索

リセット

閉じる

図 4-5 インタフェースの高度な検索

III. インタフェースの設定

をクリックするとインタフェースの設定を行うことができます。図 4-6にインタフェースの設定画面を表示します。

“インタフェース”をクリックすると、インタフェースリスト画面に戻ります。

- 1) “ステータス”、“説明”、“MAC アドレス”、“リンクタイプ”、“PVID”、“リンク速度”、“デュプレックス”、“帯域幅”、“リンクモード”、“ジャンボフレーム”、“BPDU インターセプト”、“フロー制御”、“ブロードキャストの抑制”、“マルチキャスト抑制”、“unknown ユニキャストの抑制”を選択、入力します。
- 2) 設定後、“適用”をクリックします。

システム > ネットワーク構成 > ネットワークインタフェース インタフェース インタフェースを編集

インタフェース
ステータス
説明
MACアドレス
VLAN
リンク速度
デュプレックス
帯域幅
リンクモード
ジャンプフレーム
BPDUインターセプト
フロー制御
トラフィック抑制

GigabitEthernet1/0/2 (GE1/0/2)

☒ アップ ☐ シャットダウン

GigabitEthernet1/0/2 Interface (1-255文字)

74-EA-C8-FD-BF-D0 (HH-HH-HH-HH-HH-HH)

リンクタイプ
Access

PVID
1

(現在: 100000Kbps)
Auto

(現在: Full)
Auto

(現在: 100000Kbit/s)
1-400000000Kbit/s

☒ ブリッジ ☐ ルート

☐ 無効
☒ 1600 (1600-1600)

☐ BPDUインターセプトを有効にする
無効

ブロードキャストの抑制
ratio 100

マルチキャスト抑制
ratio 100

unknownユニキャストの抑制
ratio 100


適用 キャンセル

図 4-6 インタフェースの設定

IV. インタフェースの統計情報

図 4-4インタフェースリスト画面で“統計”をクリックすると、図 4-7に示すようなインタフェースの統計情報を表示します。

“Interface”、“Description”、“InOctets”、“InUcastPkts”、“InNUcastPkts”、“InDiscards”、“InErrors”、“InUnknownProtos”、“InRate”、“OutOctets”、“OutUcastPkts”、“OutNUcastPkts”、“OutDiscards”、“OutErrors”、“OutRate”、“LastClear”の情報を表示することができます。

インタフェースの統計情報画面で  をクリックし、表示する情報を選択します。デフォルトで“Interface”、“Description”、“InUcastPkts”、“InNUcastPkts”、“InDiscards”、“InRate”、“OutUcastPkts”、“OutNUcastPkts”、“OutDiscards”、“OutRate”の情報を表示します。

“ネットワークインタフェース”をクリックすると、インタフェースリスト画面に戻ります。



をクリックすると、インタフェース統計情報の更新を行います。

システム>ネットワーク構成>ネットワークインタフェース インタフェース

<input type="checkbox"/>	Inte...	Des...	InU...	InNU...	InDis...	InRat...	OutU...	OutN...	OutDi...	OutR...	アクション
<input type="checkbox"/>	GE1...	Giga...	45196	770	0	0.018	60133	6457	0	0.251	
<input type="checkbox"/>	GE1...	Giga...	64	6467	0	0.015	0	6	0	0	
<input type="checkbox"/>	NULL0	NUL...	0	0	0	0	0	0	0	0	
<input type="checkbox"/>	Vlan1	Vlan...	0	0	0	0.009	0	0	0	0.006	
<input type="checkbox"/>	WL...	WL...	105...	61325	0	0	0	0	0	0	
<input type="checkbox"/>	WL...	WL...	794...	71129	0	0	0	0	0	0	
<input type="checkbox"/>	WL...	WL...	155	30938	0	0	0	0	0	0	

図 4-7 インタフェースの統計情報

V. インタフェースの統計情報の検索

インタフェースの統計情報を検索することができます。インタフェースの統計情報画面で検索したいインタフェースを“検索”に入力します。



をクリックすることで、インタフェースの高度な検索を行うことができます。“Interface”、“InOctets”、“InUcastPkts”、“InNUcastPkts”、“InDiscards”、“InErrors”、“InUnknownProtos”、“InRate”、“OutOctets”、“OutUcastPkts”、“OutNUcastPkts”、“OutDiscards”、“OutErrors”、“OutRate”、“LastClear”を選択します。“検索”をクリックします。

図 4-8にインタフェースの統計情報の高度な検索画面を表示します。

高度な検索

Interface

Description

InOctets

InUcastPkts

InNUcastPkts

InDiscards

InErrors

InUnknownProtos

InRate(Mb/s)

OutOctets

OutUcastPkts

OutNUcastPkts

OutDiscards

OutErrors

OutRate(Mb/s)

LastClear

検索

リセット

閉じる

図 4-8 インタフェースの統計情報の高度な検索

VI. インタフェースの統計情報の削除

インタフェースの  をクリックし、  をクリックするとすべてのインタフェースの統計情報を 0 にします。


インタフェースの統計情報画面で  をクリックすると指定したインタフェースの統計情報を 0 にします。

図 4-9 に示すような確認ダイアログが表示されます。“はい” をクリックします。

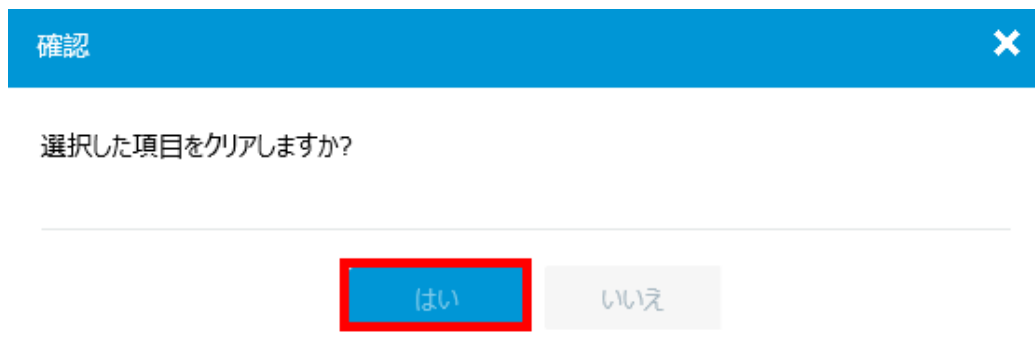


図 4-9 インタフェースの統計情報の削除

4.1.2 リンクアグリゲーションの設定、表示

I. リンクアグリゲーションの表示

ネットワーク構成サブメニューで“ネットワークインタフェース”を選択し、“リンクアグリゲーション”をクリックします。図 4-10 に示すようなリンクアグリゲーションのリスト画面が表示されます。





 をクリックすると、リンクアグリゲーション情報の更新を行います。







図 4-10 リンクアグリゲーションの表示

リンクアグリゲーションにメンバポートが割り当てられている場合、メンバポートに  が表示されます。 をクリックすると該当するリンクアグリゲーションのメンバポートが表示されます。図 4-11 にメンバポートを表示します。

インタフェース **リンクアグリゲーション** PPPoE

リンクアグリゲーション 

  検索  




アグリゲートインタフェース	アグリゲーションモード	メンバポート	アクション
BAGG1	スタティック	↓ 2	 
		GE1/0/1	
		GE1/0/2	

図 4-11 メンバポートの表示

II. リンクアグリゲーションの検索

リンクアグリゲーションを検索することができます。リンクアグリゲーションのリスト画面で検索したい項目を“検索”に入力します。

 をクリックすることで、リンクアグリゲーションの高度な検索を行うことができます。“アグリゲートインタフェース”、“アグリゲーションモード”、“メンバポート”を選択、入力します。“検索”をクリックします。図 4-12 にリンクアグリゲーションの高度な検索画面を表示します。


高度な検索 

アグリゲートインタフェース

アグリゲーションモード

メンバポート



 検索

リセット

閉じる

図 4-12 リンクアグリゲーションの高度な検索

III. リンクアグリゲーションの追加


リンクアグリゲーションのリスト画面で  をクリックすると、リンクアグリゲーションを作成します。

- 1) 図 4-13に示すように“アグリゲートインタフェース番号”、“アグリゲーションモード”、“メンバポート”を選択、入力します。
- 2) “適用”をクリックします。



図 4-13 リンクアグリゲーションの追加

IV. リンクアグリゲーションの削除

 をクリックするとリンクアグリゲーションを削除します。図 4-14に示すような確認ダイアログが表示されます。“はい”をクリックします。

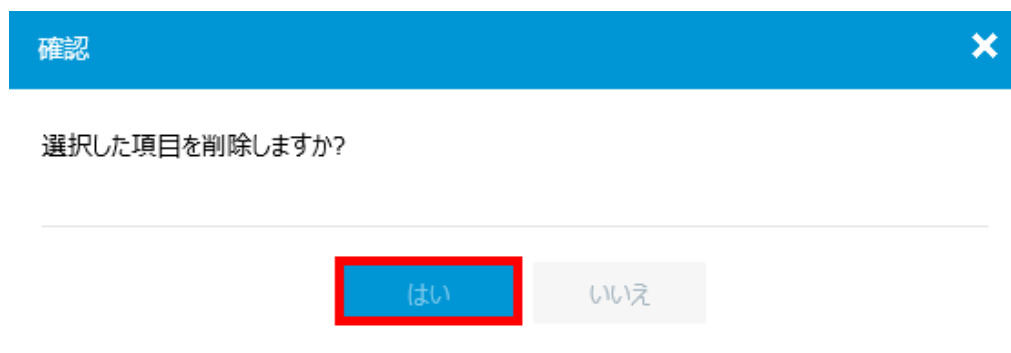


図 4-14 リンクアグリゲーションの削除

4.2 リンクの設定、表示

4.2.1 VLAN の設定、表示

I. VLAN の表示

ネットワーク構成サブメニューで“VLAN”を選択します。VLAN リストが表示されます。

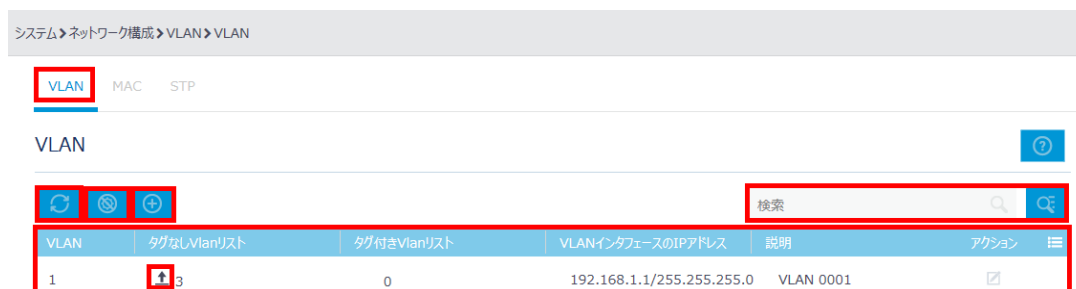


図 4-15 VLAN リストの表示

VLAN にポートが割り当てられている場合、ポートリストに が表示されます。 をクリックすると該当するポートが表示されます。図 4-16にタグなし VLAN リストを表示します。

VLAN リストで をクリックすると、VLAN 情報の更新を行います。

VLAN	タグなしVlanリスト	タグ付きVlanリスト	VLANインタフェースのIPアドレス	説明	アクション
1	3	0	192.168.1.1/255.255.255.0	VLAN 0001	
	GigabitEthernet1/0/1				
	GigabitEthernet1/0/2				
	Bridge-Aggregation1				

図 4-16 タグなし VLAN リスト

II. VLAN の検索

VLAN を検索できます。VLAN リストで検索したい項目を“検索”に入力します。

をクリックすることで、VLAN の高度な検索を行うことができます。“VLAN”、“タグなし Vlan リスト”、“タグ付き Vlan リスト”、“VLAN インタフェースの IP アドレス”、“説明”を入力します。“検索”をクリックします。図 4-17に VLAN の高度な検索画面を表示します。

高度な検索

VLAN

タグなしVlanリスト

タグ付きVlanリスト

VLANインタフェースのIPアドレス

説明


Q検索

リセット

閉じる

図 4-17 VLAN の高度な検索

III. VLAN の削除

VLAN リストで  をクリックすると VLAN を削除します。図 4-18に示すように削除する VLAN を指定し、“適用”をクリックします。

VLAN の行から削除することもできます。  をクリックすると指定した VLAN を削除します。図 4-19に示すような確認ダイアログが表示されます。



図 4-18 VLAN の削除

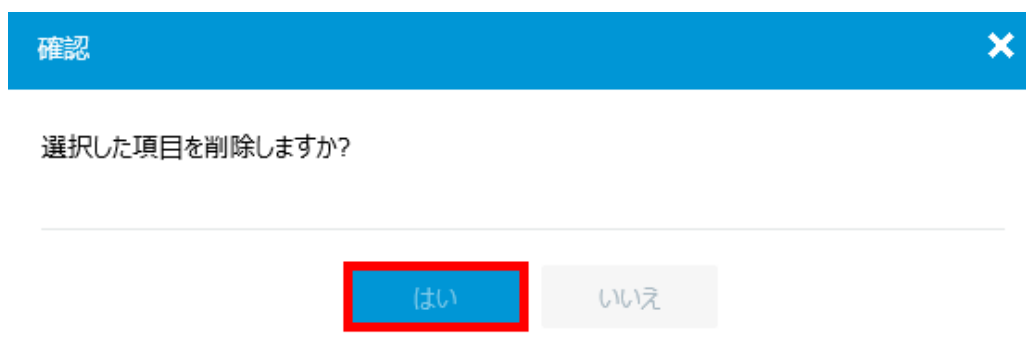


図 4-19 指定 VLAN の削除

IV. VLAN の追加


VLAN リストで  をクリックすると、VLAN を作成します。図 4-20に示すように追加する VLAN を指定し、“適用” をクリックします。



図 4-20 VLAN の追加

V. VLAN の変更


 をクリックすると VLAN の編集を行うことができます。図 4-21に VLAN の変更画面を表示します。



図 4-21 VLAN の変更画面

VI. VLAN の説明の設定

図 4-21に示すように VLAN の変更画面で VLAN の説明を“説明“に入力します。”適用“をクリックします。

VII. VLAN インタフェースの IP アドレスの設定

図 4-21に示すように VLAN の変更画面で“VLAN インタフェースの作成”を選択します。

“IPv4 アドレス/マスク”に IP アドレス、マスクを入力します。

“適用“をクリックします。

4.3 ルーティングの設定、表示

4.3.1 ルーティングテーブルの設定、表示

I. ルーティングテーブルの表示

ネットワーク構成サブメニューで“ネットワークルーティング”を選択します。“ルーティングテーブル”をクリックします。図 4-22に示すように、ルーティングテーブルの数が表示されます。

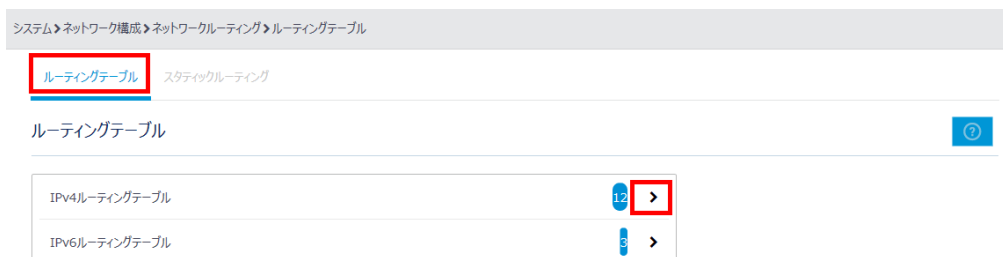


図 4-22 ルーティングテーブルの数


“IPv4 ルーティングテーブル”の右矢印アイコンをクリックすると、図 4-23に示すようなルーティングテーブルが表示されます。

IPv4ルーティングテーブル

宛先 ▲	マスク長	プロトコル	プリファレンス	ネクストホップ	インタフェース
0.0.0.0	32	Direct	0	127.0.0.1	InLoop0
127.0.0.0	8	Direct	0	127.0.0.1	InLoop0
127.0.0.0	32	Direct	0	127.0.0.1	InLoop0
127.0.0.1	32	Direct	0	127.0.0.1	InLoop0
127.255.255.255	32	Direct	0	127.0.0.1	InLoop0
192.168.1.0	24	Direct	0	192.168.1.1	Vlan1
192.168.1.0	32	Direct	0	192.168.1.1	Vlan1
192.168.1.1	32	Direct	0	127.0.0.1	InLoop0
192.168.1.255	32	Direct	0	192.168.1.1	Vlan1
224.0.0.0	4	Direct	0	0.0.0.0	NULL0
224.0.0.0	24	Direct	0	0.0.0.0	NULL0
255.255.255.255	32	Direct	0	127.0.0.1	InLoop0


合計 12 エントリ, 12 一致. ページ 1 / 1 .

図 4-23 ルーティングテーブル

ルーティングテーブルで  をクリックすると、ルーティングテーブル情報の更新を行います。

II. ルーティングテーブルの検索

ルーティングテーブルを検索することができます。検索したいルーティングテーブルを“検索”に入力します。

 をクリックすることで、ルーティングテーブルの高度な検索を行うことができます。“宛先”、“マスク長”、“プロトコル”、“プリファレンス”、“ネクストホップ”、“インタフェース”を選択、入力します。“検索”をクリックします。図 4-24にルーティングテーブルの高度な検索画面を表示します。

高度な検索

宛先

マスク長

プロトコル

プリファレンス

ネクストホップ

インタフェース

Q検索

リセット

閉じる

図 4-24 ルーティングテーブルの高度な検索

4.3.2 スタティックルーティングの設定、表示

I. スタティックルーティングの表示

ネットワーク構成サブメニューで“ネットワークルーティング”を選択します。“スタティックルーティング”をクリックします。図 4-25に示すように、スタティックルーティングの数が表示されます。

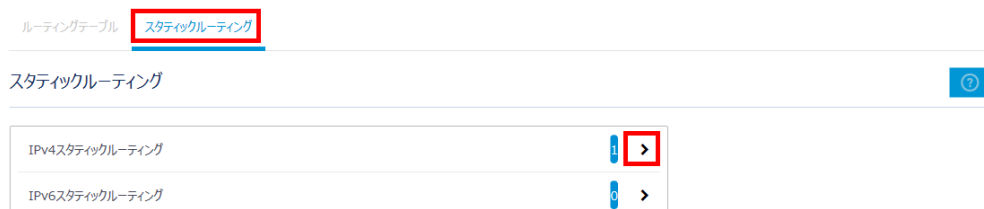


図 4-25 スタティックルーティングの数

“IPv4 スタティックルーティング”のアイコンをクリックすると、図 4-26に示すようなスタティックルーティングのリストを表示します。

宛先	マスク長	プリファレンス	ネクストホップ	インタフェース	タグ	説明	アクション
10.10.10.0	24	60	10.10.20.1		0		

図 4-26 スタティックルーティングのリスト

スタティックルーティングのリストでアイコンをクリックすると、スタティックルーティング情報の更新を行います。

II. ルーティングテーブルの検索

スタティックルーティングを検索することができます。検索したいスタティックルーティングを“検索”に入力します。

アイコンをクリックすることで、ルーティングテーブルの高度な検索を行うことができます。“宛先”、“マスク長”、“プリファレンス”、“ネクストホップ”、“インタフェース”、“タグ”、“説明”を入力します。“検索”をクリックします。図 4-27にスタティックルーティングの高度な検索画面を表示します。

高度な検索

宛先

マスク長

プリファレンス

ネクストホップ

インタフェース

タグ

説明


Q検索

リセット

閉じる

図 4-27 スタティックルーティングの高度な検索

III. スタティックルーティングの追加

スタティックルーティングで  をクリックすると、スタティックルーティングを作成します。

- 1) 図 4-28に示すように“送信先 IP アドレス”、“マスク長”、“ネクストホップ”、“プリファレンス”、“タグ”、“説明”を選択、入力します。
- 2) “適用”をクリックします。

VRF

パブリックネットワーク

送信先IPアドレス *

マスク長 * (0-32)

ネクストホップ * ☐ ネクストホップVRF ☒ 出力インターフェース

選択

ネクストホップIPアドレス

プリファレンス (1-255)


タグ (0-4294967295,0 (デフォルト))

説明 (1-60文字)

適用 キャンセル

図 4-28 スタティックルーティングの追加

IV. スタティックルーティングの削除

スタティックルーティングのリストで  をクリックするとスタティックルーティングを削除します。図 4-29に示すような確認ダイアログが表示されます。“はい” をクリックします。

確認

選択した項目を削除しますか?

はい いいえ

図 4-29 スタティックルーティングの削除

4.4 ネットワークサービスの設定、表示

ネットワーク構成サブメニューの“ネットワークサービス”を選択します。図 4-30に示すようなネットワークサービスサブメニューが表示されます。



図 4-30 ネットワークサービスサブメニューの表示

4.4.1 IP サービスの設定、表示

I. IP の設定、表示

ネットワークサービスサブメニューの“IP サービス”を選択します。図 4-31に示すように、IP のリストが表示されます。

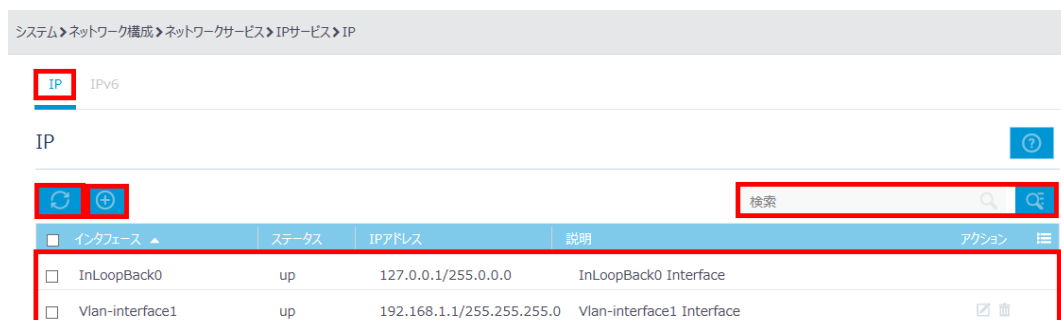


図 4-31 IP リストの表示



をクリックすると、IP リストの更新を行います。

II. IP の検索

IP を検索できます。IP リストで検索したい項目を“検索”に入力します。



をクリックすることで、IP の高度な検索を行うことができます。“インタフェース”、“ステータス”、“IP アドレス”、“説明”を入力します。“検索”をクリックします。図 4-32 に IP の高度な検索画面を表示します。

高度な検索

インタフェース

ステータス

IPアドレス

説明

Q 検索

リセット

閉じる

図 4-32 IP の高度な検索

III. IP の削除



をクリックすると指定した IP を削除します。図 4-33に示すような確認ダイアログが表示されます。

確認

×


選択した項目を削除しますか?

はい

いいえ

図 4-33 指定 IP の削除

IV. IP の追加

IP リストで  をクリックすると、IP を作成します。図 4-34に示すように追加する IP を指定し、“適用” をクリックします。

ループバックインタフェースを作成する

×

インタフェース番号 *

(0-0)

IPv4アドレス/マスク

/

適用

キャンセル

図 4-34 IP の追加

目次

5 章 システムメニュー	5-1
5.1 Syslog 情報	5-2
5.1.1 Syslog 情報の表示	5-2
5.1.2 Syslog 情報の検索	5-3
5.1.3 Syslog 情報の削除	5-4
5.2 ユーザ設定	5-5
5.2.1 ユーザリストの表示	5-5
5.2.2 ユーザリストの検索	5-5
5.2.3 ユーザの編集・削除・追加	5-6
5.3 装置管理	5-8
5.3.1 装置情報、日付と時刻の設定	5-8
5.3.2 コンフィグレーションファイルの管理	5-11
5.3.3 ソフトウェアのアップグレード	5-17
5.3.4 装置の再起動	5-19
5.3.5 装置情報	5-21

5章 システムメニュー

本章ではシステム表示のシステムの設定について説明します。図 5-1に示すように、システム表示が選択されていることを確認してください。



図 5-1 システム View の選択

図 5-2に示すシステム View での設定メニューで“システム”をクリックします。図 5-3に示すようなシステムサブメニューが表示されます。

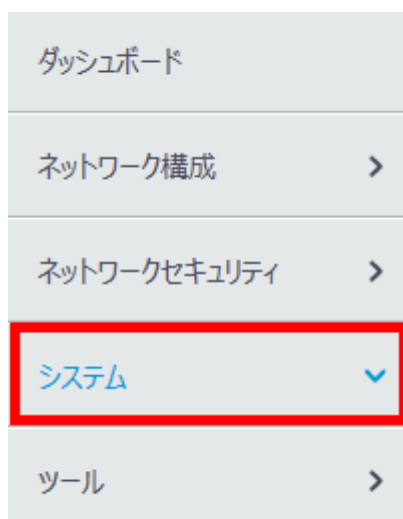


図 5-2 システムメニューの選択





図 5-3 システムサブメニュー

5.1 Syslog情報

5.1.1 Syslog 情報の表示

システムサブメニューで“イベントログ”を選択します。図 5-4に示すような Syslog 情報が表示されます。

“時間”、“レベル”、“説明”をクリックすることで項目ごとにソートすることができます。
 をクリックすると、Syslog 情報の更新を行います。

 をクリックすると Syslog の詳細情報を表示することができます。図 5-5に Syslog の詳細情報を表示します。

“適用”をクリックすると、Syslog の情報画面に戻ります。

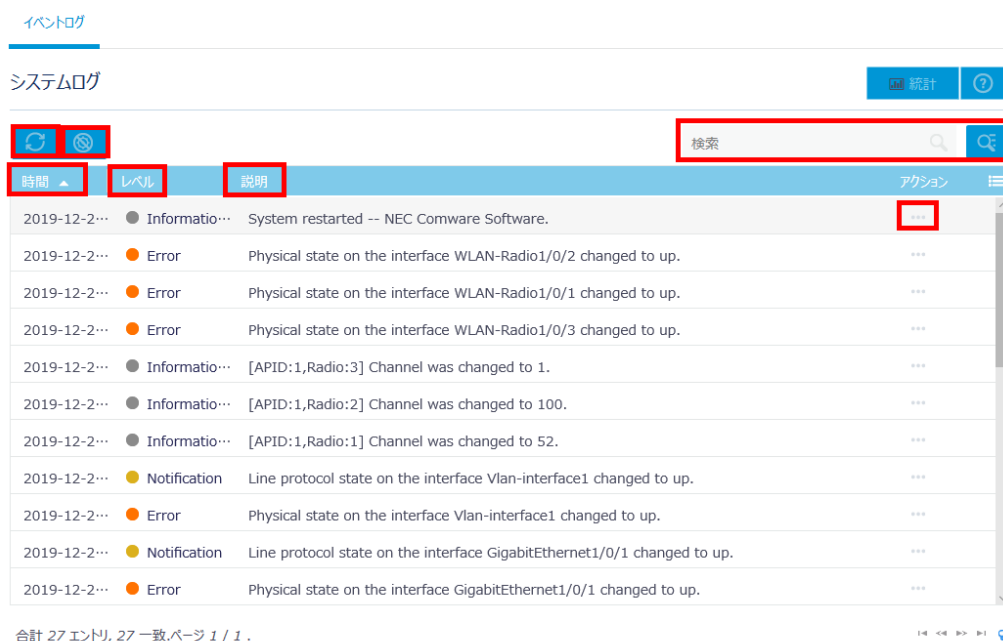


図 5-4 Syslog 情報

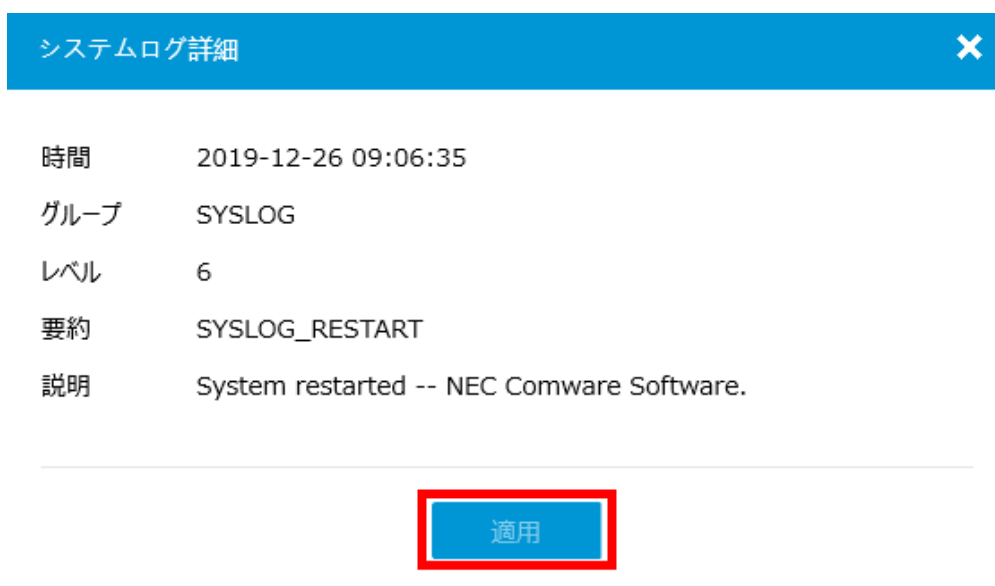



図 5-5 Syslog 詳細情報

5.1.2 Syslog 情報の検索

Syslog 情報を検索することができます。Syslog 情報画面で、warning など検索したい項目を“検索”に入力します。

Syslog 情報画面で  をクリックすることで、Syslog 情報の高度な検索を行うことができます。“時間”、“レベル”、“説明”を選択、入力します。“検索”をクリックします。図 5-6 にインターフェースの高度な検索画面を表示します。

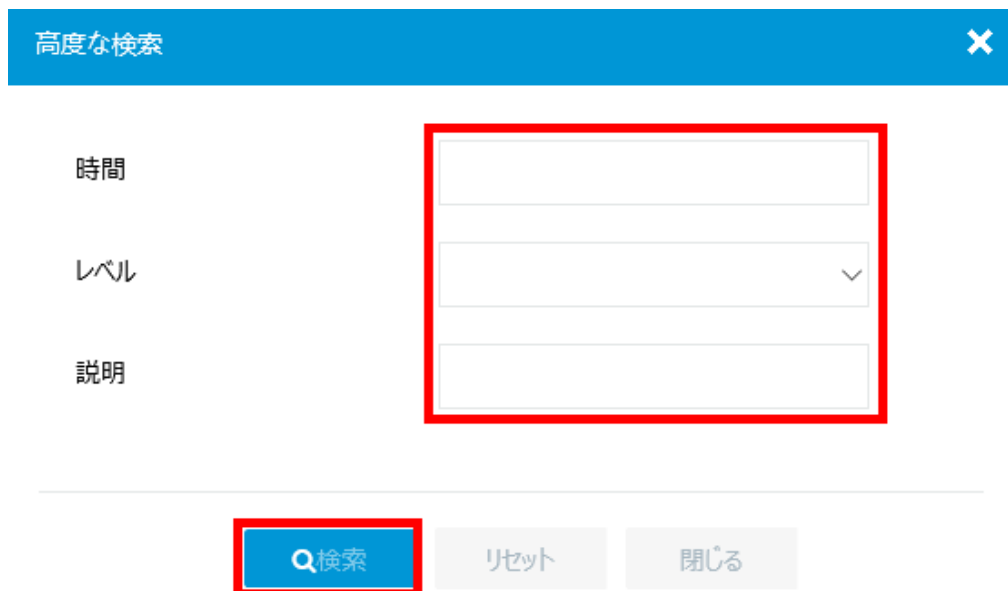


図 5-6 Syslog 情報の高度な検索

5.1.3 Syslog 情報の削除


右上の  をクリックすると全 Syslog 情報を削除します。図 5-7 に示すような確認ダイアログが表示されます。“はい”をクリックします。




図 5-7 全 Syslog 情報の削除

5.2 ユーザ設定

5.2.1 ユーザリストの表示

システムサブメニューで“管理者”を選択します。図 5-8に示すようなユーザリストが表示されます。

ユーザリストでをクリックすると、ユーザリストの更新を行います。

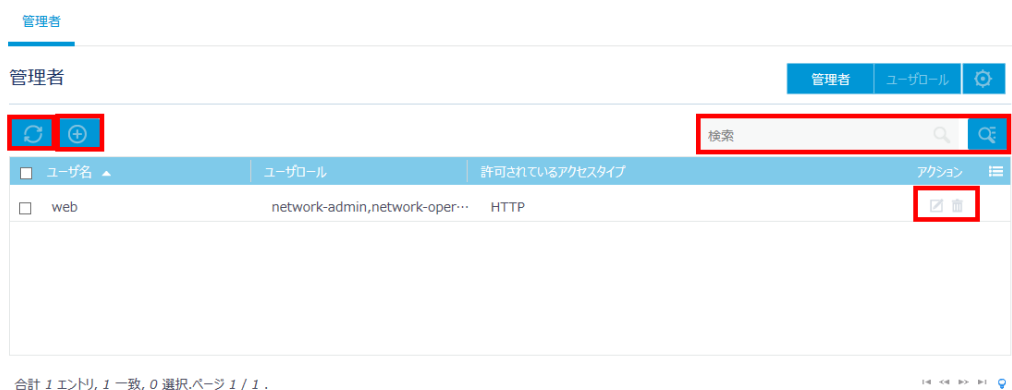



図 5-8 ユーザリストの表示

5.2.2 ユーザリストの検索

ユーザを検索することができます。ユーザリストで検索したい項目を“検索”に入力します。

をクリックすることで、ユーザの高度な検索を行うことができます。

- 1) “ユーザ名”、“ユーザロール”、“許可されているアクセスタイプ”を入力します。
- 2) “検索”をクリックします。

図 5-9に管理者の高度な検索画面を表示します。



高度な検索

ユーザ名

ユーザロール


許可されているアクセスタイプ

Q検索 リセット 閉じる

図 5-9 管理者の高度な検索

5.2.3 ユーザの編集・削除・追加

1. ユーザの編集

編集するユーザのをクリックします。図 5-10に示すような編集画面に移行します。編集したい項目に記入した後、“適用”をクリックします。

ユーザ名 * web (1-55文字)

パスワード (1-63文字)

パスワードの確認 (1-63文字)

ユーザロール
選択
network-admin
network-operator

グループ
system

許可されているアクセスタイプ
☐ Terminal ☐ Telnet ☐ FTP ☒ HTTP ☐ HTTPS ☐ PAD ☐ SSH

最大同時オンラインユーザ数 (1-1024)


FTP作業ディレクトリ
flash: (1-255文字)

高度な設定の表示

適用 キャンセル

図 5-10 ユーザ編集画面

II. ユーザの削除

削除するユーザの  をクリックします。図 5-11に示すような確認ダイアログが表示されます。“はい” をクリックします。


確認

選択した項目を削除しますか?

はい いいえ

図 5-11 ユーザの削除確認ダイアログ

III. ユーザの追加

ユーザを追加することができます。ユーザリストで  をクリックすると、図 5-12に示す新規ユーザ追加画面に移行します。追加するユーザの情報を記入後、“適用”をクリックします。

ユーザ名 *	<input type="text"/>	(1-55文字)
パスワード	<input type="password"/>	(1-63文字)
パスワードの確認	<input type="password"/>	(1-63文字)
ユーザロール	<div>選択 ▼</div>	
グループ	<div>選択 ▼</div>	
許可されているアクセスタイプ	<input type="checkbox"/> Terminal <input type="checkbox"/> Telnet <input type="checkbox"/> FTP <input type="checkbox"/> HTTP <input type="checkbox"/> HTTPS <input type="checkbox"/> PAD <input type="checkbox"/> SSH	
最大同時オンラインユーザ数	<input type="text"/>	(1-1024)
FTP作業ディレクトリ	<div>flash:</div> <div></div>	(1-255文字)

高度な設定の表示

適用

キャンセル

図 5-12 新しい管理者追加画面

5.3 装置管理

システムサブメニューで“管理”を選択します。

5.3.1 装置情報、日付と時刻の設定

“設定”を選択します。図 5-13に示すような装置情報の設定メニューが表示されます。



図 5-13 装置情報の設定メニュー

I. 装置情報の設定

装置情報の設定メニューの“デバイス情報”の ➤ をクリックすると、図 5-14に示すような装置情報の設定を表示します。

“デバイス名”、“デバイスの場所”、“お問い合わせ先”を入力し、“適用”をクリックします。

“管理”をクリックすると、装置情報の設定メニュー画面に戻ります。

The screenshot shows the '装置情報の設定' (Device Information Settings) form. The form is divided into three sections: 'デバイス名' (Device Name) with a text input field containing 'QX-W1030' and a character limit of '(1~64文字)'; 'デバイスの場所' (Device Location) with a text input field and a character limit of '(1~255文字)'; and 'お問い合わせ先' (Contact Information) with a text input field and a character limit of '(1~255文字)'. A red box highlights the entire form area. Below the form, there is a blue '適用' (Apply) button, also highlighted with a red box.



図 5-14 装置情報の設定

II. 日時の設定

装置情報の設定メニュー“日付と時刻”の ➤ をクリックすると、図 5-15に示すような設定を行います。

“管理”をクリックすると、装置情報の設定メニュー画面に戻ります。

- 1) “日時を設定する”で“時刻を手動で設定する”、あるいは“ネットワーク上の信頼できる時刻ソースと時刻を自動的に同期する”を選択します。

- 手動で日時を指定する場合、“時刻を手動で設定する”を選択します。日付を設定する場合、 をクリックします。図 5-16に示すようにカレンダー表示で日付を設定することができます。 をクリックし、図 5-17に示すように時刻を設定します。
 - NTP を使用する場合、“ネットワーク上の信頼できる時刻ソースと時刻を自動的に同期する”を選択します。
- 2) “タイムゾーン”で“Tokyo (GMT+09:00)”を選択します。
 - 3) “サマータイム”でサマータイムを設定します。
 - 4) “適用”をクリックします。

システム > システム **管理** > 設定

システム時刻

14:36:08
12/26/2019

日時を設定する

☒ 時刻を手動で設定する

2019-12-26 

14:32:13 

タイムゾーン

☐ ネットワーク上の信頼できる時刻ソースと時刻を自動的に同期する

Tokyo (GMT+09:00) ▼

サマータイム

☐ サマータイムに合わせて時刻を調整する 

適用

図 5-15 システムクロックの設定

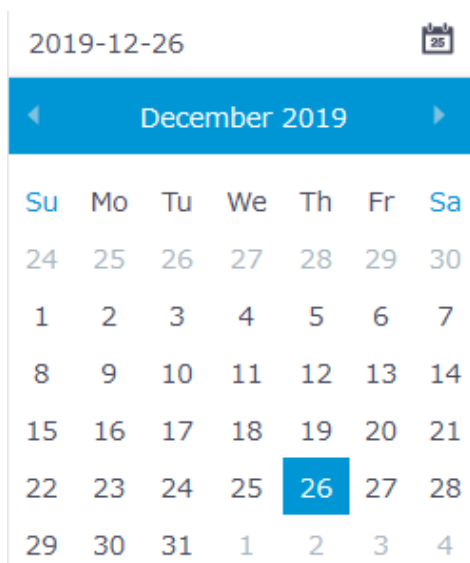


図 5-16 カレンダー表示



図 5-17 時刻の設定

5.3.2 コンフィグレーションファイルの管理


I. コンフィグレーションファイルの管理メニュー

“設定”を選択します。図 5-18に示すようなコンフィグレーションの管理メニューが表示されます。



図 5-18 コンフィグレーションの管理メニュー

II. カレントコンフィグレーションの表示

コンフィグレーションの管理メニューで“ランニングコンフィグレーションの表示”の  をクリックすると、図 5-19に示すようにカレントコンフィグレーションを表示します。

“管理” をクリックするとコンフィグレーションの管理メニューに戻ります。

システム > システム管理 設定

```
1. #
2. version 7.2.19
3. #
4. sysname QX-W1030
5. #
6. undo copyright-info enable
7. #
8. wlan global-configuration
9. #
10. loopback-detection interval-time 5
11. #
12. password-recovery enable
13. #
14. vlan 1
15. #
16. interface NULL0
17. #
18. interface Vlan-interface1
19. ip address 192.168.1.1 255.255.255.0
20. #
21. interface GigabitEthernet1/0/1
22. #
23. interface GigabitEthernet1/0/2
24. #
25. interface WLAN-Radio1/0/1
26. #
27. interface WLAN-Radio1/0/2
28. #
29. interface WLAN-Radio1/0/3
30. #
31. scheduler logfile size 16
32. #
33. line class console
34. user-role network-admin
35. #
```

図 5-19 カレントコンフィグレーションの表示

III. カレントコンフィグレーションの保存

コンフィグレーションの管理メニューで“ランニングコンフィグレーションの保存”をクリックすると、図 5-20に示すように装置のフラッシュメモリにカレントコンフィグレーションを保存します。

保存するファイルを次回の起動に使用するコンフィグレーション、あるいはファイル名を指定し、“適用”をクリックします。

ランニングコンフィグレーションの保存

☒ 次回の起動に使用するスタートアップコンフィグレーションファイルに保存

☐ ファイルに保存 .cfg (1~216文字)

適用 キャンセル

図 5-20 カレントコンフィグレーションの保存

IV. カレントコンフィグレーションのバックアップ

コンフィグレーションの管理メニューで“ランニングコンフィグレーションのエクスポート”をクリックすると、図 5-21に示すようにコンフィグレーションファイルの確認ダイアログが表示されます。

- 1) “保存”をクリックします。図 5-22に示すようにダウンロードファイルの処理を促すダイアログが表示されます。
- 2) “フォルダを開く”をクリックします。図 5-23に示すように“startup.cfg”ファイルが保存されたフォルダを表示します。

startup.cfg について行う操作を選んでください。
場所: 192.168.1.1

開く 保存 キャンセル ×

図 5-21 コンフィグレーションファイルの確認ダイアログ

startup.cfg のダウンロードが完了しました。

開く フォルダを開く ダウンロードの表示 ×

図 5-22 コンフィグレーションファイルの処理ダイアログ

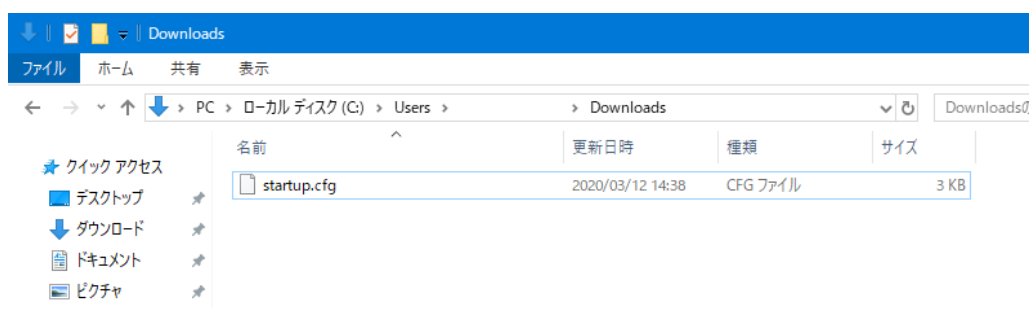


図 5-23 ダウンロードフォルダ

V. コンフィグレーションファイルの復元

コンフィグレーションの管理メニューで“コンフィグレーションのインポート”をクリックすると、図 5-24に示すような画面が表示されます。



図 5-24 コンフィグレーションファイルの復元

図 5-25に示すようにコンフィグレーションファイルの選択画面でダウンロードするファイルを選択します。

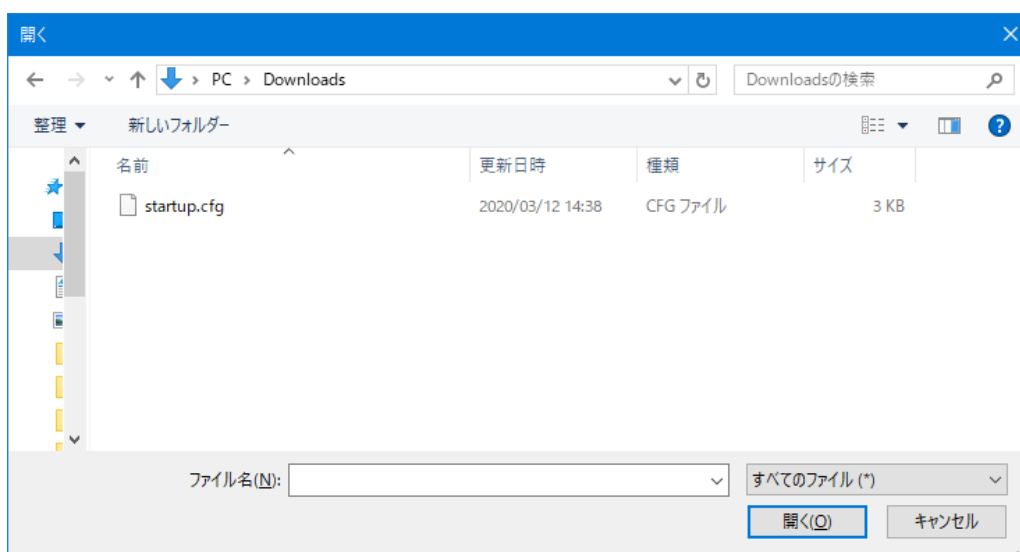



図 5-25 コンフィグレーションファイルの選択

VI. 設定の初期化

コンフィグレーションの管理メニューで“出荷時のデフォルト状態にリセット”のをクリックすると、図 5-26に示すような画面が表示されます。

“リセット”をクリックすると、図 5-27に示すような確認ダイアログが表示されます。
“はい”をクリックします。装置の再起動が行われます。

“管理”をクリックするとコンフィグレーションの管理メニューに戻ります。



図 5-26 設定の初期化

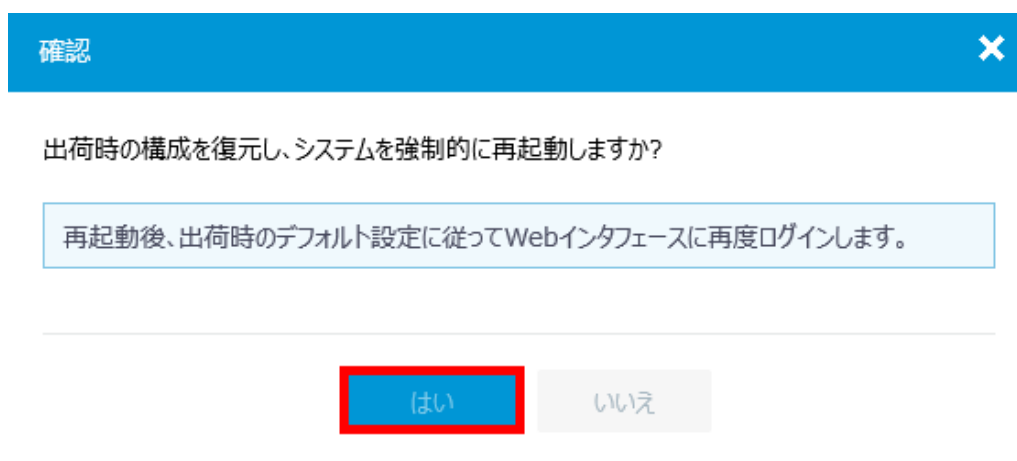


図 5-27 設定の初期化の確認ダイアログ

5.3.3 ソフトウェアのアップグレード

- 1) “アップグレード” を選択します。図 5-28に示すようなソフトウェアイメージのアップグレード画面が表示されます。




図 5-28 ソフトウェアイメージのアップグレード

- 2) “アップグレード” をクリックすると、図 5-29に示すようなソフトウェアイメージの選択画面が表示されます。



図 5-29 ソフトウェアファイルの選択

- 3) ソフトウェアイメージを参照し、“適用” をクリックすると、ソフトウェアイメージのアップグレードを行います。
- 4) 装置の再起動が行われた後、Web ブラウザから再度ログインしてください。

ソフトウェアイメージのアップグレード画面の“ソフトウェアイメージの表示”で をクリックすると、図 5-30に示すようにフラッシュメモリの現在のソフトウェアイメージを表示します。

“アップグレード” をクリックするとソフトウェアイメージのアップグレード画面に戻ります。



図 5-30 現在のソフトウェアイメージ

5.3.4 装置の再起動

- 1) “再起動”を選択します。
- 2) 図 5-31に示すような装置の再起動画面が表示されます。“デバイスの再起動”をクリックします。
- 3) 図 5-32に示すような再起動時の確認ダイアログが表示されます。カレントコンフィグレーションを次回の起動に使用するスタートアップコンフィグレーションファイルに保存するため“再起動する前に実行中の構成を保存します。”がチェックされていることを確認します。
- 4) “適用”をクリックします。図 5-33に示すような再起動完了メッセージが表示されます。
- 5) 再度ログインしてください。



図 5-31 装置の再起動

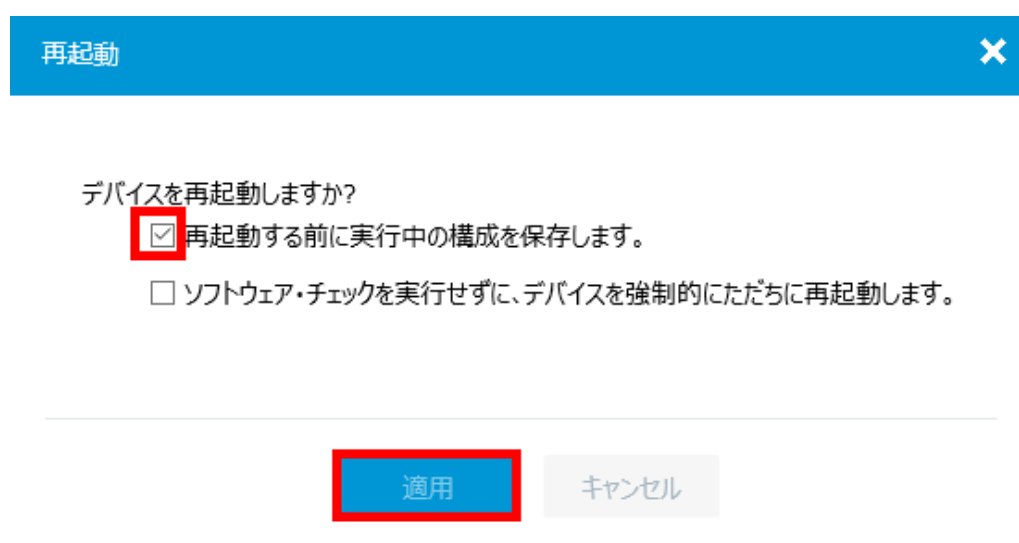


図 5-32 再起動時の確認ダイアログ

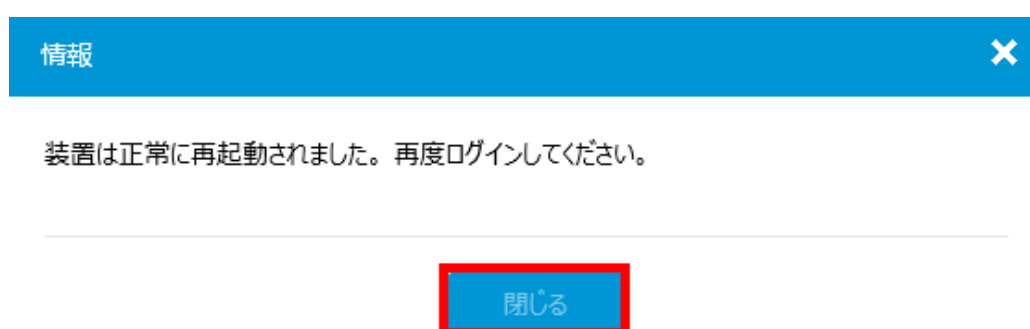


図 5-33 再起動完了メッセージ

5.3.5 装置情報


I. 装置情報のメニュー表示

“情報” を選択します。図 5-34に示すような装置情報のメニュー画面が表示されます。



図 5-34 装置情報のメニュー画面

II. 装置名の表示

“デバイス”の  をクリックします。図 5-35に示すような装置名表示画面に移行します。

“管理” をクリックすると装置情報のメニュー画面に戻ります。

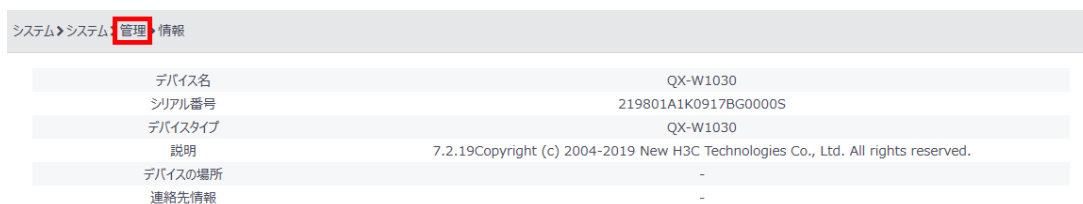



図 5-35 装置名表示画面

III. 装置バージョンの表示

“バージョン”の  をクリックします。図 5-36に示すような装置バージョン表示画面に移行します。

“管理” をクリックすると装置情報のメニュー画面に戻ります。

システム>システム>**管理**>情報

Comware Software, Version 7.2.19
Copyright (c) 2004-2019 New H3C Technologies Co., Ltd. All rights reserved.
QX-W1030 uptime is 0 weeks, 0 days, 0 hours, 5 minutes
Last reboot reason : User soft reboot

Boot image: flash:/qx-w1000-fat-boot.bin
Boot image version: 7.2.19
Compiled Dec 19 2019 16:00:00
System image: flash:/qx-w1000-fat-system.bin
System image version: 7.2.19
Compiled Dec 19 2019 16:00:00

with 1 ARM 710MHz Processor
512M bytes DDR3
4M bytes NorFlash Memory
128M bytes NandFlash Memory

Hardware Version is Ver.A
Basic Bootrom Version is 1.00
Extend Bootrom Version is 1.05
[Subslot 0]QX-W1030 Hardware Version is Ver.A
[SLOT 1]GE1/0/1 (Hardware)Ver.A, (Driver)1.0
[SLOT 1]GE1/0/2 (Hardware)Ver.A, (Driver)1.0
[SLOT 1]RADIO1/0/1 (Hardware)Ver.A, (Driver)1.0
[SLOT 1]RADIO1/0/2 (Hardware)Ver.A, (Driver)1.0
[SLOT 1]RADIO1/0/3 (Hardware)Ver.A, (Driver)1.0

図 5-36 装置バージョン表示画面

目次

6 章 ツールメニュー	6-1
6.1 デバッグ	6-2
6.1.1 診断情報の収集	6-2

6章 ツールメニュー

本章ではシステム表示のツールの設定について説明します。図 6-1に示すように、システム表示が選択されていることを確認してください。



図 6-1 システム表示の選択

図 6-2に示すシステム表示での設定メニューで“ツール”をクリックします。図 6-3に示すようなツールサブメニューが表示されます。



図 6-2 ツールメニューの選択



図 6-3 ツールサブメニュー

6.1 デバッグ

6.1.1 診断情報の収集

- 1) ツールサブメニューで“デバッグ”を選択します。
- 2) 図 6-4に示すような診断情報の収集画面が表示されます。“収集”をクリックすると、図 6-5に示すように診断情報の確認ダイアログが表示されます。
- 3) “保存”をクリックします。図 6-6に示すように診断情報の処理を促すダイアログが表示されます。
- 4) “フォルダを開く”をクリックします。図 6-7に示すように診断情報ファイルが保存されたフォルダを表示します。

圧縮されたファイルを展開することで、テキストエディタで診断情報ファイルを表示することができます。



図 6-4 診断情報の収集

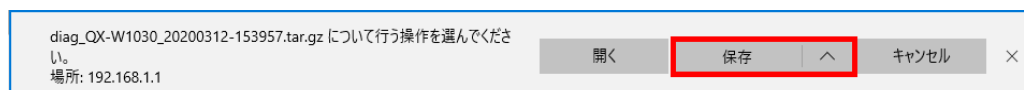


図 6-5 診断情報の確認ダイアログ

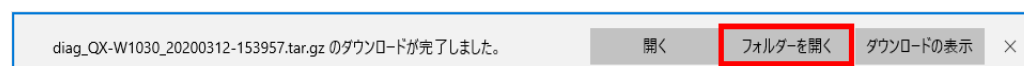


図 6-6 診断情報の処理ダイアログ

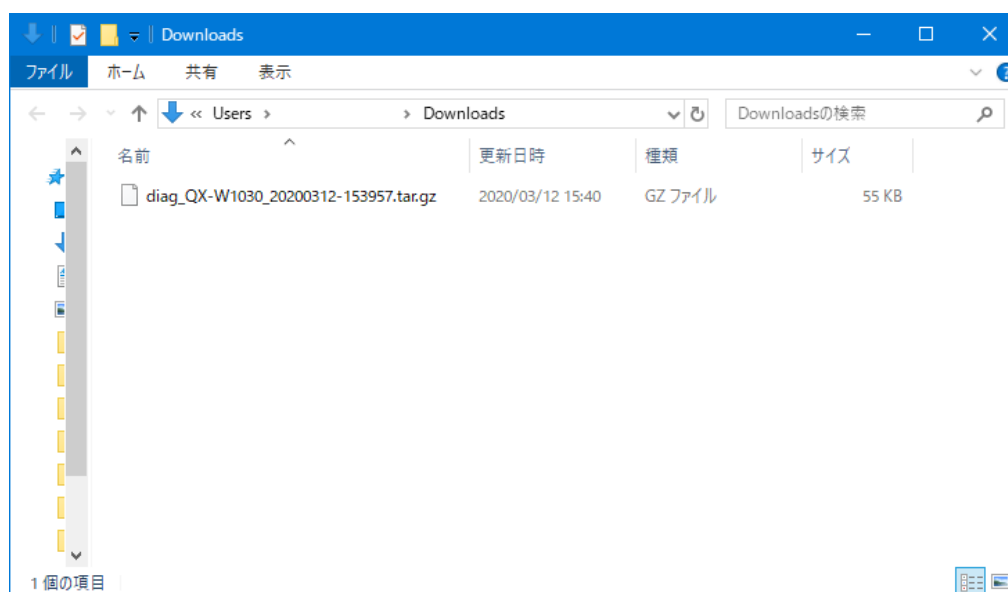


図 6-7 診断情報のダウンロードフォルダ

目次

7 章 クイックスタートメニュー.....	7-1
7.1 SSID の設定	7-2

7章 クイックスタートメニュー

本章ではネットワーク表示のクイックスタート設定について説明します。図 7-1に示すように、ネットワーク表示が選択されていることを確認してください。



図 7-1 ネットワーク表示の選択

図 7-2に示す設定メニューで“クイックスタート”をクリックします。図 7-3に示すようなクイックスタートサブメニューが表示されます。



図 7-2 クイックスタートメニューの選択



図 7-3 クイックスタートサブメニュー

SSID を 3 つ用意して、各無線（5G（W52,53）、5G(W56)、2.4G）に個別の SSID を指定する例を示します。

7.1 SSIDの設定

クイックスタートサブメニューで“サービスの追加”を選択します。図 7-4に示すような SSID の設定画面が表示されます。設定手順を以下に示します。

- 1) “無線サービス名”にサービステンプレート名を入力します。図 7-4に示す例でのサービステンプレート名は“service1”です。複数設定する場合、同名を使用することはできません。
- 2) “SSID”を入力します。図 7-4に示す例での SSID は“test1”です。複数設定する場合、同名を使用することはできません。
- 3) “無線サービス”で“オン”を選択します。
- 4) “認証モード”で“スタティックキー(PSK)”を選択します。図 7-4に示すように“セキュリティモード”と“PSK 鍵”が表示されます。
- 5) “PSK 鍵”で“Passphrase”を選択し、パスワードを入力します。図 7-4に示す例でのパスワードは“12345678”です。“パスワードの確認”にも同じパスワードを入力します。
- 6) “適用”をクリックします。

設定例としてサービステンプレートおよび SSID を 3 つ用意します。

上記手順の（1）、（2）を繰り返し、サービステンプレート名、SSID 名をそれぞれ“service1”・“test1”、“service2”・“test2”、“service3”・“test3”として、同様に設定します。

サービスの追加

基本設定

無線サービス名 * (1-63 文字)

SSID * (1-32 文字)

説明 (1-64 文字)

無線サービス ☒ オン ☐ オフ

デフォルトVLAN (1-4094, デフォルト値: 1)

SSIDステルス ☐ 有効 ☒ 無効

認証設定

認証モード ☐ オープン(認証なし) ☒ スタティックキー(PSK) ☐ 802.1X ☐ 802.1X認証(暗号化なし) ☐ スタティックWEP ☐ MAC認証 ☐ IPv4 Portal認証 ☐ IPv6 Portal認証

セキュリティモード ☐ WPA ☐ WPA2 ☒ WPA or WPA2

PSK鍵 ☒ Passphrase ☐ Rawkey

(8-63 アルファベット文字)

パスワードの確認

高度な設定と適用

図 7-4 SSID の設定画面

目次

8 章 ワイヤレス構成メニュー	8-1
8.1 AP 管理	8-2
8.1.1 AP と SSID の関連づけ	8-2
8.1.2 設定の確認	8-4

8章 ワイヤレス構成メニュー

本章ではネットワーク表示のワイヤレス構成設定について説明します。図 8-1に示すように、ネットワーク表示が選択されていることを確認してください。



図 8-1 ネットワーク表示の選択

図 8-2に示すネットワーク表示での設定メニューで“ワイヤレス構成”をクリックします。
図 8-3に示すようなワイヤレス構成サブメニューが表示されます。

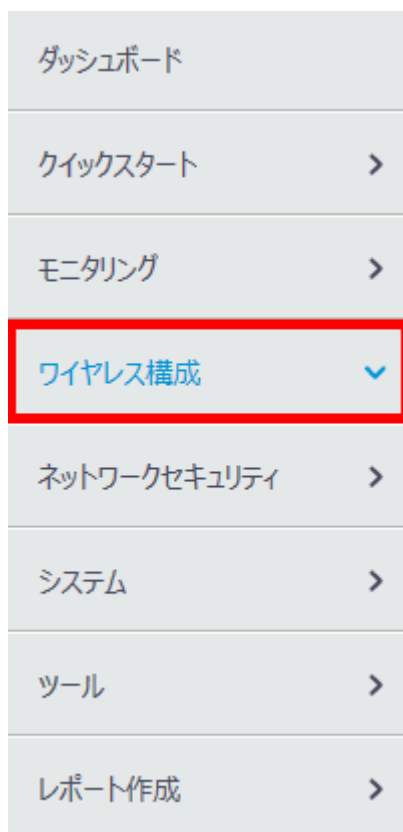


図 8-2 ワイヤレス構成メニューの選択





図 8-3 ワイヤレス構成サブメニュー

8.1 AP管理

8.1.1 AP と SSID の関連づけ

ワイヤレス構成サブメニューで“AP の管理”を選択します。図 8-4に示すような SSID 設定画面が表示されます。

“クイックスタートメニュー”の“SSID の設定”で設定した SSID を AP に関連づけます。

- 1) “AP” が選択されていることを確認します。
- 2) をクリックします。図 8-5に示すように、“クイックスタートメニュー”の“SSID の設定”で設定した SSID が表示されます。使用したい SSID を選択します。
- 3) をクリックし、AP と SSID を関連づけます。図 8-6の①に示す状態になったことを確認します。図 8-6の②の状態では関連づけが反映されません。
- 4) “適用”をクリックします。

AP APのグローバル設定

WLANサービスをラジオにバインドする。5GHz(1)

WLANサービスのバインド

service1

WLANサービスをラジオにバインドする。5GHz(2)

WLANサービスのバインド

service2

WLANサービスをラジオにバインドする。2.4GHz(3)

WLANサービスのバインド

service3

適用 キャンセル

図 8-4 SSID 設定画面 1

WLANサービスのバインド

service1
service2
service3

図 8-5 サービステンプレートの選択

AP APのグローバル設定

WLANサービスをラジオにバインドする。5GHz(1)

WLANサービスのバインド

service1 🗑️ ①

service1 ▼ +

WLANサービスをラジオにバインドする。5GHz(2)

WLANサービスのバインド

service2 ▼ + ②

WLANサービスをラジオにバインドする。2.4GHz(3)

WLANサービスのバインド

service3 ▼ + ②

適用 キャンセル

図 8-6 SSID 設定画面 2

8.1.2 設定の確認

ワイヤレス構成サブメニューで“ワイヤレスネットワーク”を選択します。図 8-7に示すような WLAN サービスリストが表示されます。確認したい WLAN サービスの***をクリックします。図 8-8に示すような設定確認画面が表示されます。

“AP へのバインド”の項目で関連づけの設定を確認できます。

“戻る”をクリックすると AP 情報表示画面に戻ります。

ワイヤレスネットワーク

検索

WLANサービス	SSID	ステータス	認証モード	暗号スイート	デフォルトVLAN	アクション
<input type="checkbox"/> service1	test1	●	スタティックPSK	TKIP & CCMP	1	*** 🗑️
<input type="checkbox"/> service2	test2	●	スタティックPSK	TKIP & CCMP	1	*** 🗑️
<input type="checkbox"/> service3	test3	●	スタティックPSK	TKIP & CCMP	1	*** 🗑️

図 8-7 WLAN サービスリスト表示

WLANサービス	service1	セキュリティタイプ	スタティックキー(電源装置)
SSID	test1	セキュリティモード	WPA & WPA2
説明		暗号スイート	TKIP & CCMP
WLANサービスステータス	有効	鍵タイプ	Passphrase
デフォルトVLAN	1	許可の無視	無効
SSID非表示	無効	侵入防御	無効
最大クライアント数		TKIP CM時間	0 秒
クイックアソシエーション	無効	PTK ライフ時間	43200 秒
		GTK Rekey	有効
		GTK ユーザダウンステータス	無効
		GTK Rekeyモード	時間に基づきます。 更新時間 86400 秒

APへのバインド

AP名	ラジオ	
fatap	5GHz(1)	

APグループへのバインド

APグループ名	APモデル	ラジオ	

1/1

戻る

0/0

図 8-8 設定確認画面